

第四章 復 旧

4-1 復旧の概況

被災後、直ちに水防から広急工事へ、さらにそのまま本工事へと復旧作業は進んだのであるが、その間にはいろいろの問題が山積され、これらをひとつづつ乗り越えて、とにかく今日の姿にまで持って来る事ができた。

すなわち、

- ① 設計樹立のための技術者不足の問題（県および市町村とも）
- ② 復旧に用いる資材の確保と単価の問題
これには、農林被害もあり、砂、砂利、石材、木材、セメントについての絶対量の問題およびこれの輸送の問題、ことに飯田線の輸送能力の限界をどうカバーするか等（当時セメントは全国的に不足していた。）
- ③ 労務者の問題
限られた地域に大きな工事が発注されるための労働力の不足、これを件なう賃金のアップと機械化等の問題
- ④ 道路改良、舗装工事、河川改修工事など一般公共事業との調整
- ⑤ 復旧の予算と国の補助率等国との交渉
- ⑥ 集団移住に関連する問題
- ⑦ 耕地、林務等との調整
- ⑧ 大規模、復旧事業、河川災害関連事業、災害復旧助成事業等をどうするか、これらの復旧の根本となる洪水量をどうするか等、次から次へと問題が生じ国の査定に入る前に慎重に打合せが行なわれた。

特にセメントと、労働力の不足は深刻なもので県も工場や、隣接県を飛び廻って交渉し、協力を願うなどした結果この大事業を乗切ることができた。

4-2 昭和36年公共土木施設災害復旧事業費と復旧の経過

(1) 昭和36年公共土木施設災害復旧事業査定別総計表

表-33

単位 千円

工種別	原決定	県 工 事		市 町 村 工 事		計	
	38年再調査	か所数	金 額	か所数	金 額	か所数	金 額
	39年再調査						
河 川	//	1,362	7,934,571	553	2,286,855	1,915	10,221,426
	//	1,365	9,569,544	505	1,523,310	1,870	11,092,854
	//	1,365	9,565,386	504	1,500,103	1,869	11,065,489
砂 防	//	176	1,202,218	—	—	176	1,202,218
	//	179	1,394,573	—	—	179	1,394,573
	//	179	1,401,882	—	—	179	1,401,882
道 路	//	684	1,687,150	1,126	713,938	1,810	2,401,448
	//	682	1,879,739	1,113	797,033	1,795	2,676,772
	//	637	1,924,541	1,106	783,623	1,743	2,780,164
梨 梁	//	108	356,079	263	370,838	371	726,917
	//	108	399,489	268	420,667	376	820,156
	//	102	368,377	265	409,612	367	777,989
計	//	2,330	11,180,378	1,942	3,371,631	4,272	14,552,009
	//	2,334	13,243,345	1,886	2,741,010	4,220	15,984,355
	//	2,283	13,260,186	1,875	2,693,338	4,158	15,953,524

(2) 昭和36年公共土木施設災害復旧事業年度別進捗状況表 S.40.2現在

表-34

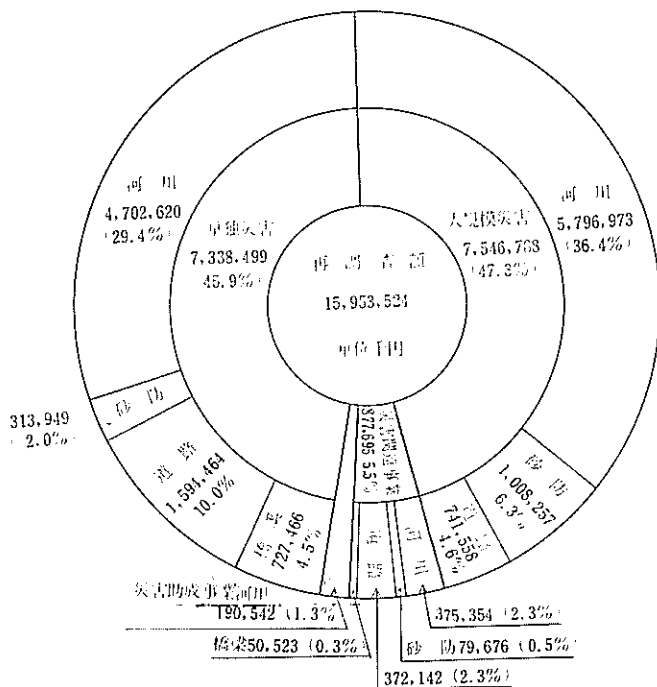
単位 千円

	原決定額(A)	36年度施行		37年度施行			38年度施行			39年度施行		
	38年調査額(B)	実施額	進捗率	実施額	単年進捗率	累計進捗率	実施額	単年進捗率	累計進捗率	実施額	単年進捗率	累計進捗率
県工事	11,180,378	3,816,971	34.1	4,381,139	39.2	73.3	—	—	—	—	—	—
	13,243,345	—	—	—	—	—	3,192,446	24.1	86.0	—	—	—
	13,260,186	—	—	—	—	—	—	—	—	1,869,630	14.1	100.0
河川	7,934,571	2,741,738	34.6	3,263,335	41.1	75.7	—	—	—	—	—	—
	9,569,544	—	—	—	—	—	2,462,049	25.7	88.4	—	—	—
	9,565,386	—	—	—	—	—	—	—	—	1,152,325	12.1	100.5
砂防	1,202,218	428,988	35.7	572,594	47.6	83.3	—	—	—	—	—	—
	1,394,573	—	—	—	—	—	300,021	21.5	93.3	—	—	—
	1,401,882	—	—	—	—	—	—	—	—	98,452	7.0	99.9
道路	1,687,510	520,856	30.9	383,177	22.7	53.6	—	—	—	—	—	—
	1,879,739	—	—	—	—	—	381,049	20.3	68.3	—	—	—
	1,924,541	—	—	—	—	—	—	—	—	589,512	30.6	97.4
橋りょう	356,079	125,389	35.2	162,033	45.5	80.7	—	—	—	—	—	—
	399,489	—	—	—	—	—	49,327	12.4	84.3	—	—	—
	368,377	—	—	—	—	—	—	—	—	29,341	8.0	99.4
市町村工事	3,371,631	722,747	21.4	1,009,795	30.0	51.4	—	—	—	—	—	—
	2,741,010	—	—	—	—	—	687,231	25.1	88.3	—	—	—
	2,693,338	—	—	—	—	—	—	—	—	273,565	10.2	100.0
合計	14,552,069	4,539,718	31.1	5,390,934	37.0	68.2	—	—	—	—	—	—
	15,984,355	—	—	—	—	—	3,879,670	24.3	86.4	—	—	—
	15,953,524	—	—	—	—	—	—	—	—	2,143,195	13.4	100.0

註 $F = \frac{D}{A}$ $G = \frac{E}{A}$ $H = \frac{D+F}{A}$ $J = \frac{I}{B}$ $K = \frac{D+F+I}{B}$ $M = \frac{L}{C}$

(3) 昭和36年公共土木施設災害復旧事業別災害比較表

表-35



(4) 昭和36年度災害林務農地年度別進捗状況表

表-36

単位 千円

所管	内 訳	復旧額	36 年 度			37 年 度			38 年 度			39 年 度		
			実施額	進捗率	%	実施額	進捗率	%	実施額	進捗率	%	実施額	進捗率	%
林 務	治 山	73,124	9,785	14	43,337	59	73	19,263	26	99	739	1	100	
	林 道	629,395	165,592	26	162,328	26	52	200,517	32	84	100,958	16	100	
	計	702,519	175,377	25	205,665	29	54	219,780	31	85	101,697	15	100	
農 地	農 地	1,735,937	469,949	27	852,493	49	76	285,896	16	92	127,599	8	100	
	農業用施設	3,979,305	1,058,285	27	1,630,657	41	63	763,243	19	87	527,120	13	100	
	関 連	206,087	60,037	29	91,387	44	73	43,017	21	94	11,646	6	100	
	計	5,921,329	1,588,271	27	2,574,537	42	69	1,092,156	18	87	666,365	13	100	

(5) 昭和36年公共土木施設災害復旧事業災害別工種別各年度別進捗状況表

表-37

災害別	工 種	決 定 額		比率	進 捗 率 %								摘 要
		場所	金額		36年	37 年		38 年		39 年			
						単年	累年	単年	累年	単年	累年		
単 独 災 害	河 川	1,792	4,702,620	29.4	29.5	34.7	63.7	24.9	88.6	11.4	100.0		
	砂 防	168	313,949	2.0	30.8	41.1	71.9	21.3	93.2	6.8	//		
	道 路	1,733	1,594,464	10.0	27.9	22.5	50.4	24.9	75.3	24.6	//		
	橋りょう	362	727,466	4.5	30.5	43.8	74.3	12.3	86.6	13.4	//		
	計	4,055	7,338,499	45.9	29.5	33.5	63.0	24.1	17.1	12.8	//		
大規模災害	河 川	42	5,796,973	26.4	26.1	38.2	64.3	25.8	90.1	9.9	100.0		
	砂 防	9	1,008,257	6.3	14.5	34.8	47.3	14.2	61.5	38.5	//		
	道 路	6	741,558	4.6	1.4	5.1	6.5	24.6	31.1	68.9	//		
	計	57	7,546,788	47.3	22.4	34.7	57.1	24.1	81.2	18.8	//		
災 害 関 連	河 川	32	275,354	2.3	46.9	38.7	85.6	8.4	94.0	6.0	100.0		
	砂 防	2	79,676	0.5	70.2	19.9	90.1	6.5	96.6	3.4	//		
	道 路	4	372,142	2.3	67.2	32.8	100.0	—	—	—	//		
	橋りょう	5	50,523	0.3	—	100.0	100.0	—	—	—	//		
	計	43	877,695	5.5	53.2	38.9	92.1	4.7	96.8	3.2	//		
災 害 助 成	河 川	3	190,542	1.3	22.6	23.2	45.8	17.1	62.9	37.1	100.0		
	計	3	190,542	1.3	26.6	23.2	45.8	17.1	62.9	37.1	//		
計		4,158	15,953,524	100.0	13.1	37.0	63.2	24.1	86.7	13.3	100.0		

(6) 昭和36年災害復旧事業(助成関連を含む)に使用した計画洪水量

表-38

番号	河川名	事業名	流域面積	河川勾配	比流量	含砂率	計画流量	地点
1	新宮川上流	一定災	29.1	1/25	14.0	15	407	百々目木川合流
2	" 下流	"	57.7	1/45	12.5	15	720	天竜川合流
3	百々目木川	"	15.4	1/20	14.0	15	216	新室川合流
4	四徳川上流	"	21.9	1/20	20.0	15	438	桑原滝
5	" 下流	"	31.0	1/20	18.0	15	558	小洪川合流
6	前沢川	助成	19.0	1/20	14.0	10	266	天竜川合流
7	久米川	一定災	33.8	1/125~1/100	6.0	15	210	"
8	新川	"	7.0	1/166~1/58	8.9	15	65	"
9	毛賀沢川	関連	6.5	1/100~1/67	8.8	15	57	"
10	野底川	一定災	22.3	1/50~1/33	9.8	15	220	松川合流
11	土曾川	"	6.8	1/100/~1/33	13.6	15	93	天竜川合流
12	南大島川	"	8.0	1/239~1/29	13.0	15	104	"
13	大島川	"	16.6	1/40~1/25	10.5	15	175	"
14	田沢川	"	8.3	1/154~1/22	12.8	15	106	"
15	大沢川	助成	7.8	1/50~1/25	14.0	15	109	"
16	小川川	"	34.8	1/112~1/55	5.5	15	190	"
17	加賀須川	一定災	21.5	1/105~1/73	5.6	15	120	"
18	蛇川	関連	32.4	1/163~1/55	9.0	15	292	"
19	芦部川	"	15.6	1/52~1/12	10.9	15	157	"
20	寺沢川(豊丘)	関連	8.2	1/62	13.0	15	106	天竜川合流
21	間沢川	一定災	17.0	1/45~1/28	10.5	15	178	"
22	寺沢川(松川)	"	5.8	1/50~1/20	10.0	20	58	"
23	鹿塩川	"	92.1	1/56~1/28	9.7	25	900	小洪川合流
24	塩川	"	31.0	1/36~1/29	9.7	25	360	鹿塩川合流
25	青木川	"	45.3	1/65~1/40	9.7	25	450	小洪川合流
26	王竜寺	助成	6.0	1/25~1/10	14.8	15	99	飯田松川合流
27	片桐松川	関連	30.2	1/30~1/35	14.4	30	436.5	天竜川合流
28	板橋川	一定災	45.0	1/37	8.9	—	400.0	千曲川合流

新宮川の復旧状況

新宮川 駒ヶ根市中沢4号

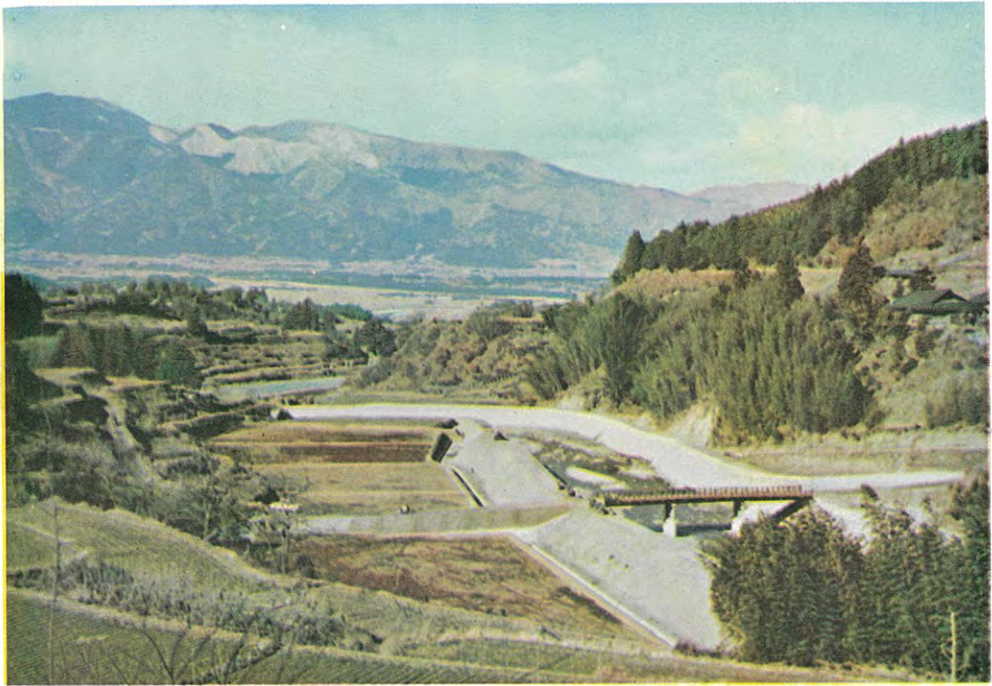
工事費 78,612千円

帯工 10基

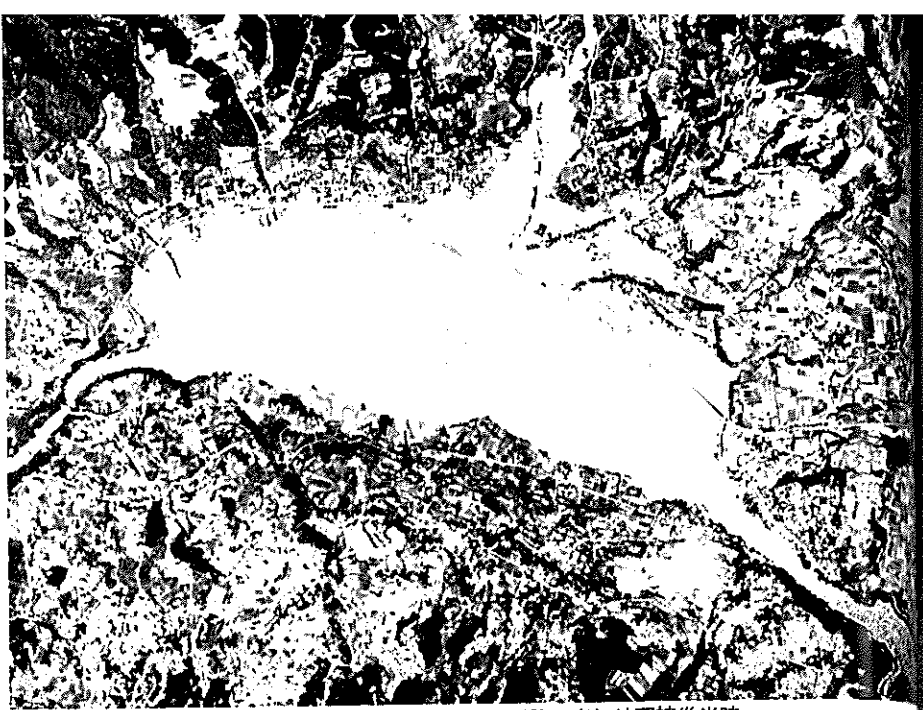
流路工 長815m 法長6.4m

谷止工 1基

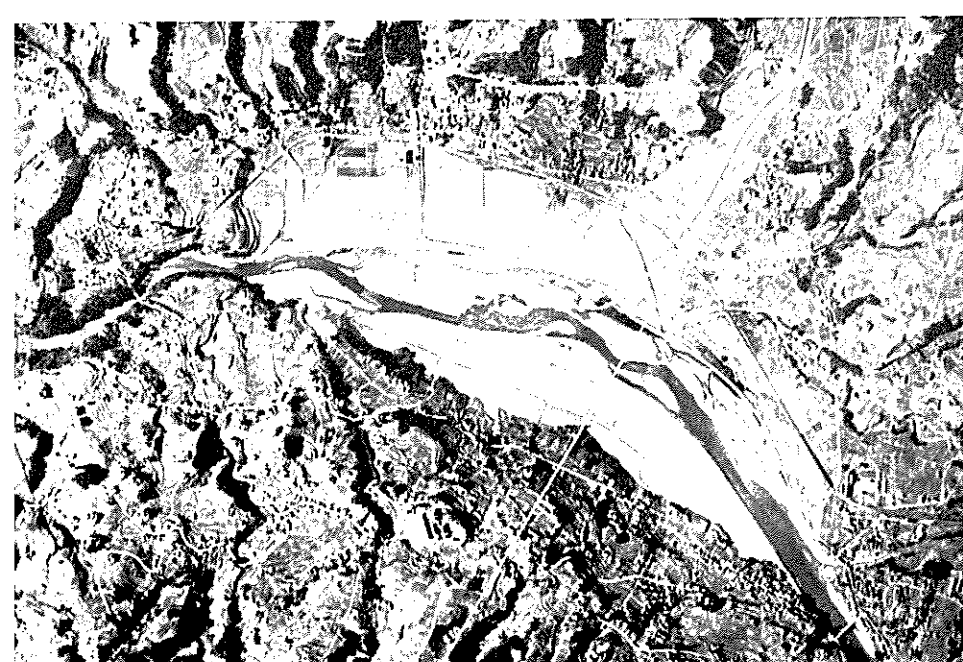
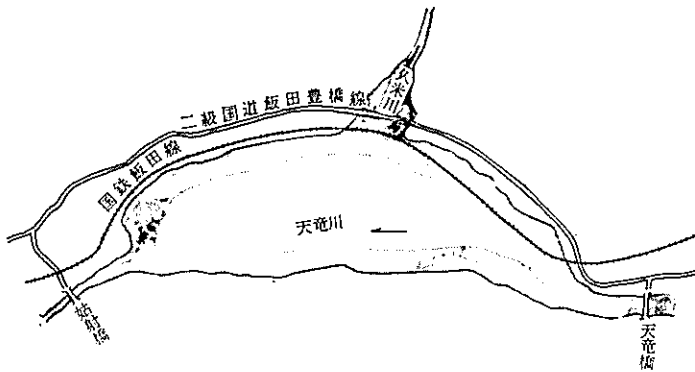
落差工 3基



4—3 建設省直轄
災害復旧工事

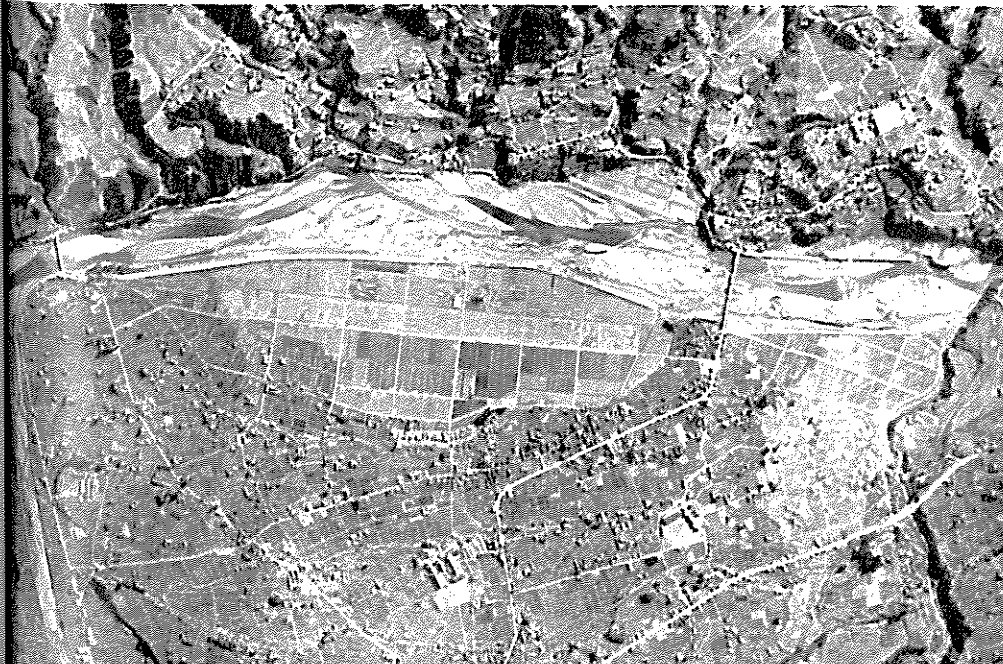
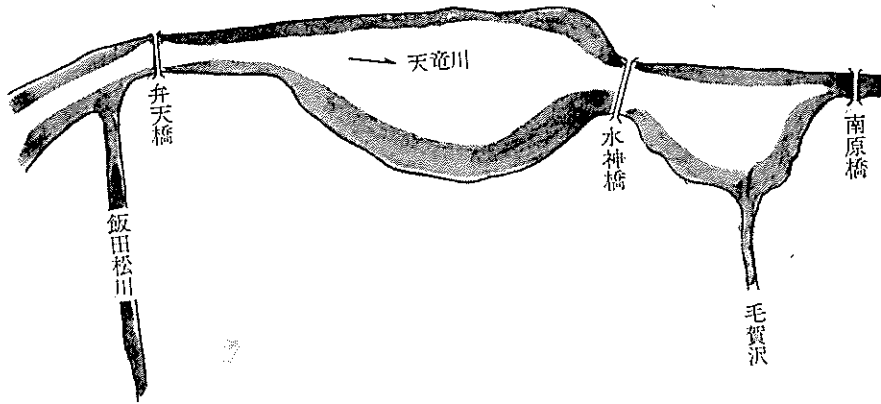


天竜川筋飯田市川路，竜江地区被災当時



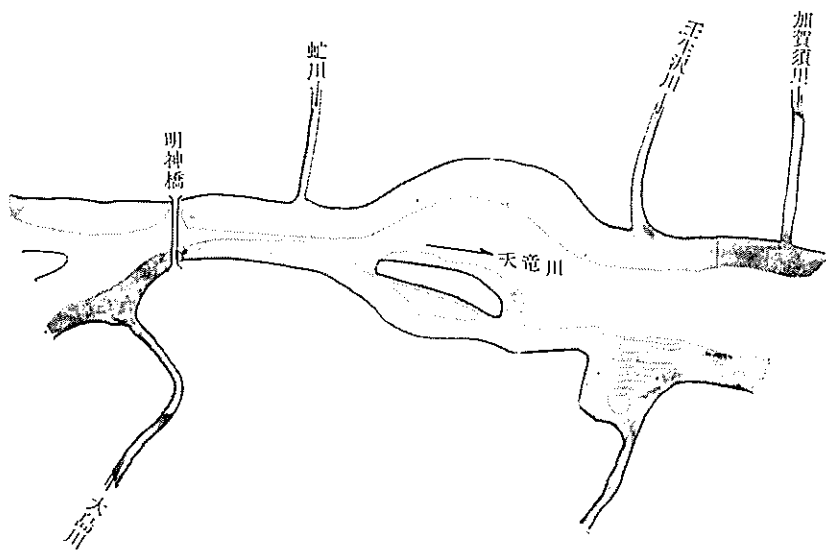
復旧なった同地区

天竜川筋飯田市松尾
下久堅地区 被災当時



復旧なった同地区

天竜川筋高森町下市田
地区 被災当時



復旧なった同地区





天竜川右岸

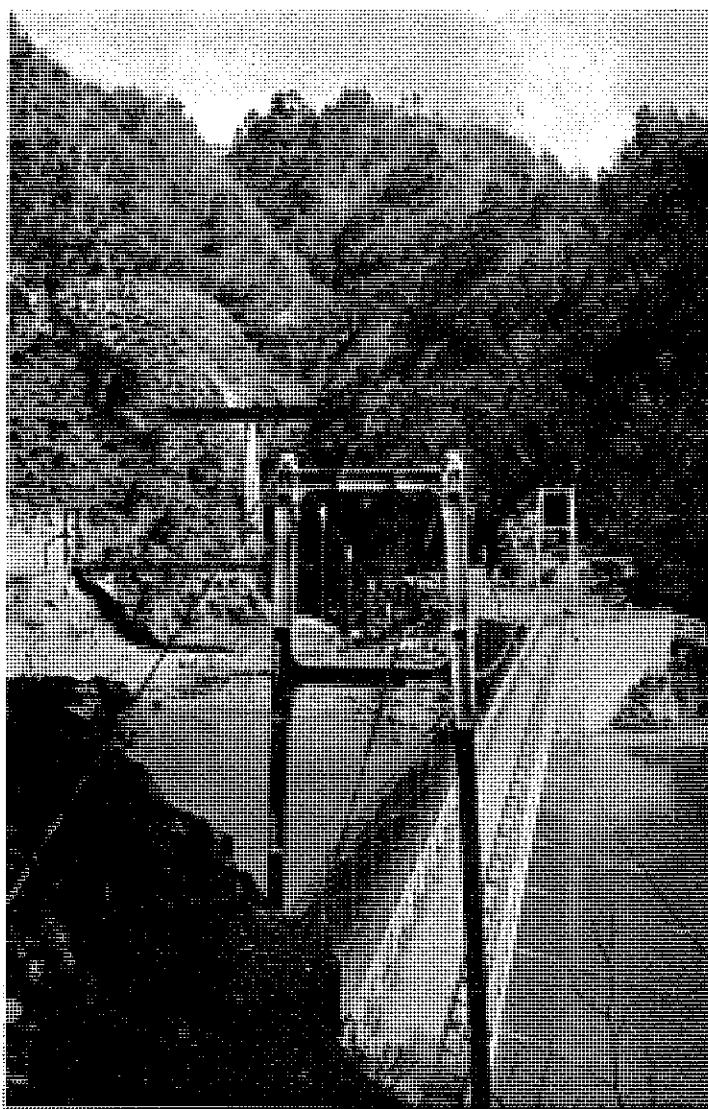
下伊那郡高森町下市田

築堤工

長 630m

決定工費 123,619千円

4-4 県工事市町村工事関係



下伊那郡阿南町竜田橋

工事費 3,619千円

橋長 76.0m

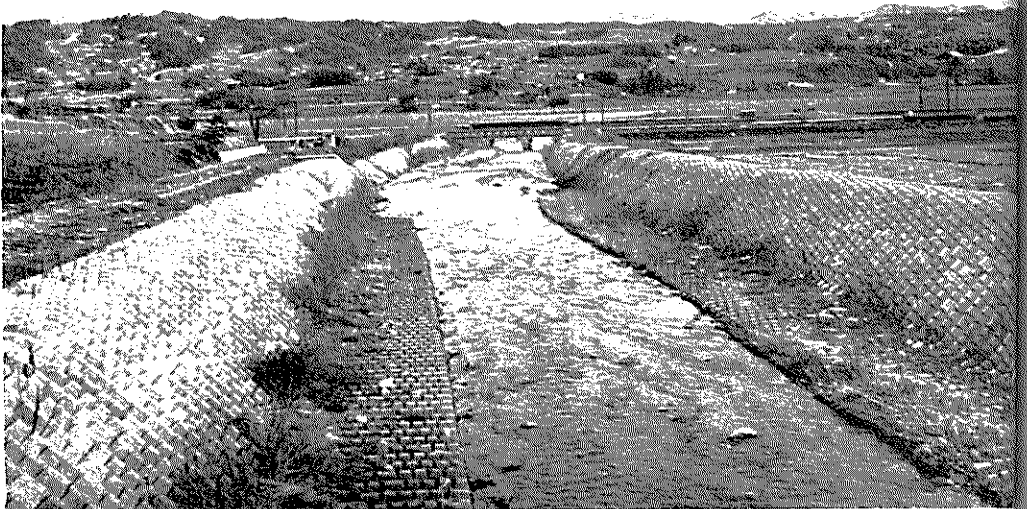
幅員 2.0m

被災



久米川 飯田市上川路
工事費 74,489千円
長 2,029m
床止工 2基

しゅん工



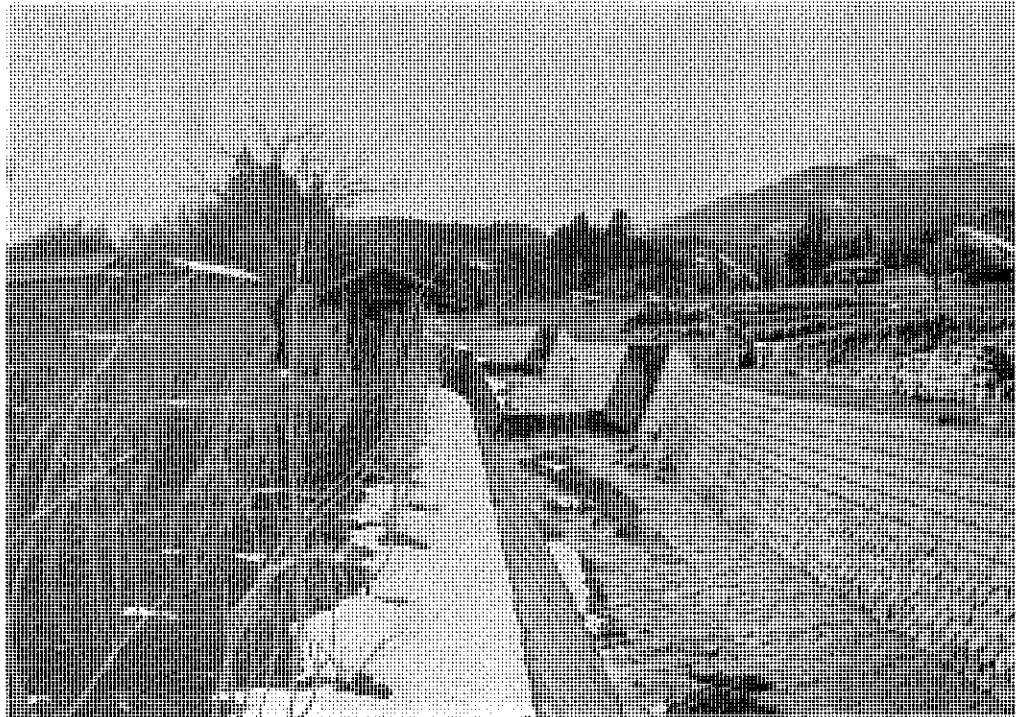


米川 飯田市米川

工事費 81,137千円

流路工	2,310m	法	長	2.9~3.2m
落差工	49基	帯	工	102基

しゅん工





天竜川支久米川小支茂都計川
飯田市下中村

工事費	237,037千円
流路工	長 4,734m
	法長 2.4~3.9m
	落差工 40基
	帯工 82基
	堰堤工 1基

しゅん工

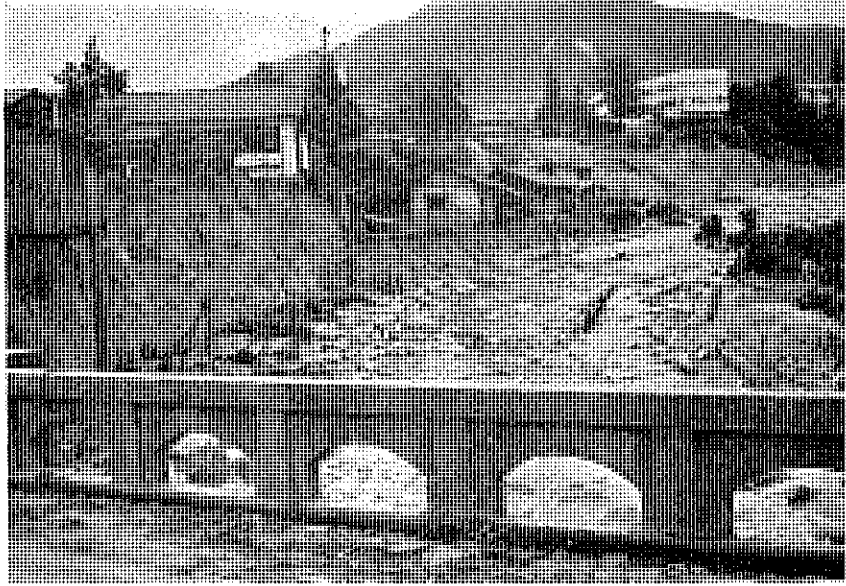


天竜川支松川支野底川

野底川は飯田市の北方法橋山(1664.0m)に源を發し、飯田市(右岸)、上郷村(左岸)間を流れて、松川へ合流する河川である。

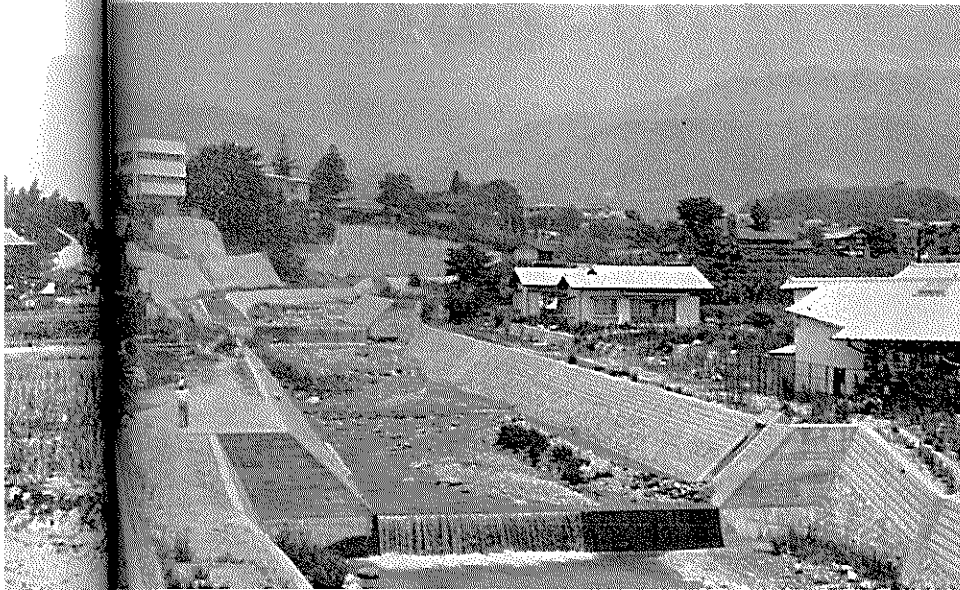
この流域面積は20.68km²、流路延長11.8km、平均勾配1/16という急流河川で本災害に際しては最も被害の大きかった川の一つである。

上流から押し出した石や流木は沿岸の至る所ではらんし、家屋の流失、田畑の埋没等その惨状は目をおおうものがあつた。



野底川筋 飯田市小伝馬橋附近被災状況

3m

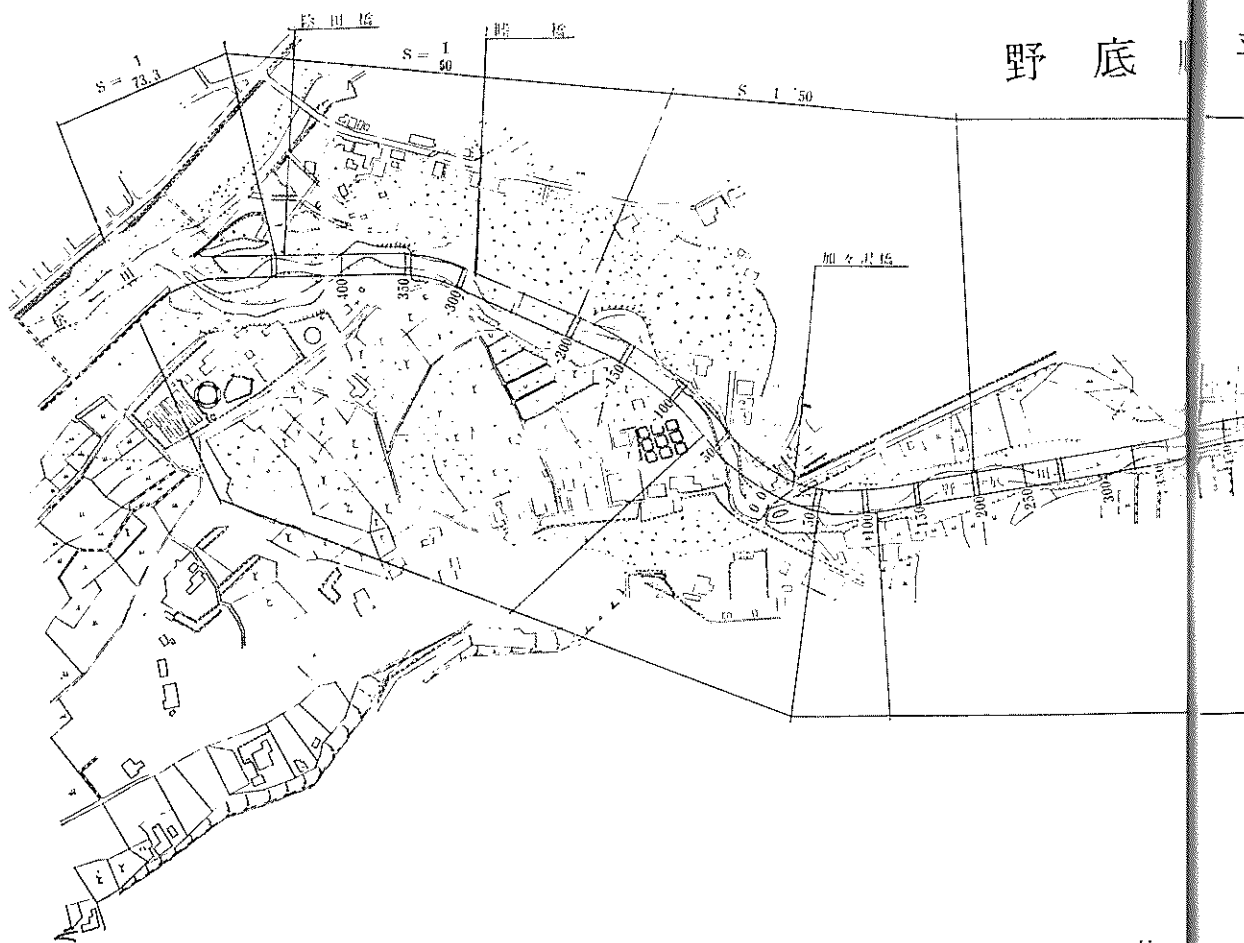


復旧なった同地区

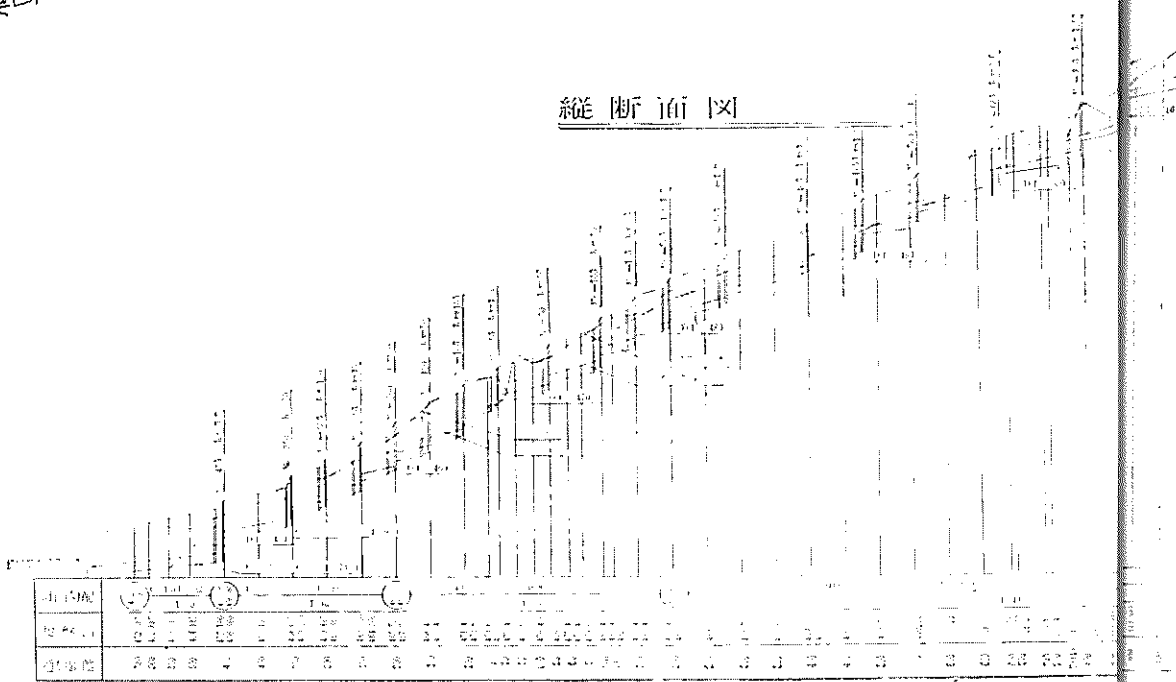
野底川 飯田市野底

工事費	472,238千円
法長	9,34~3.57
流路工長	4,220.0m
落差工	34基
堰堤工	2基
帯工	67基
道路橋	13橋
鉄道橋	1橋

野底

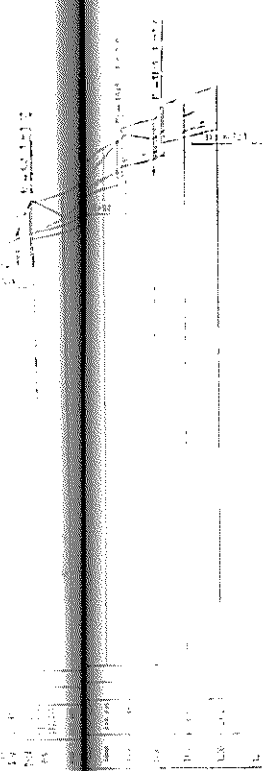
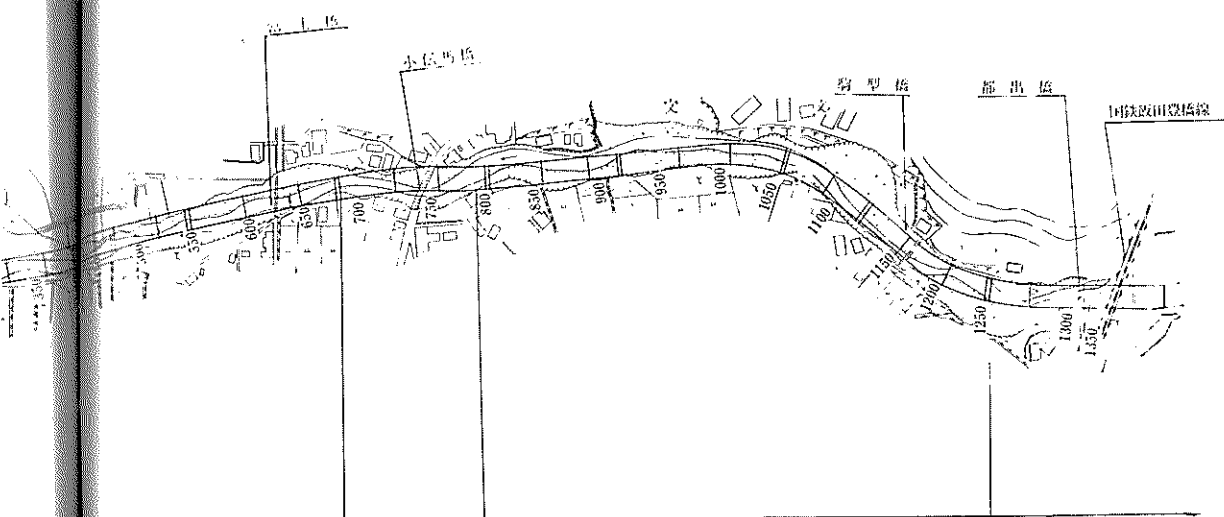


縦断面図



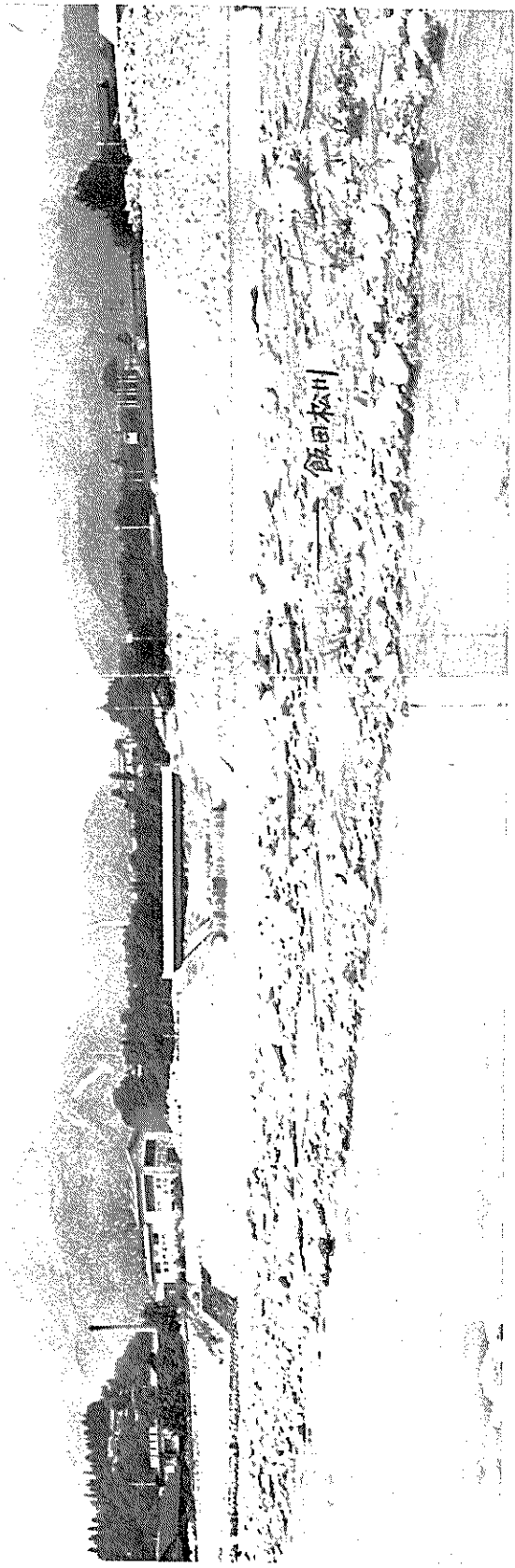
川平面図

S=1/40





野武野松川合流点附近被災状況



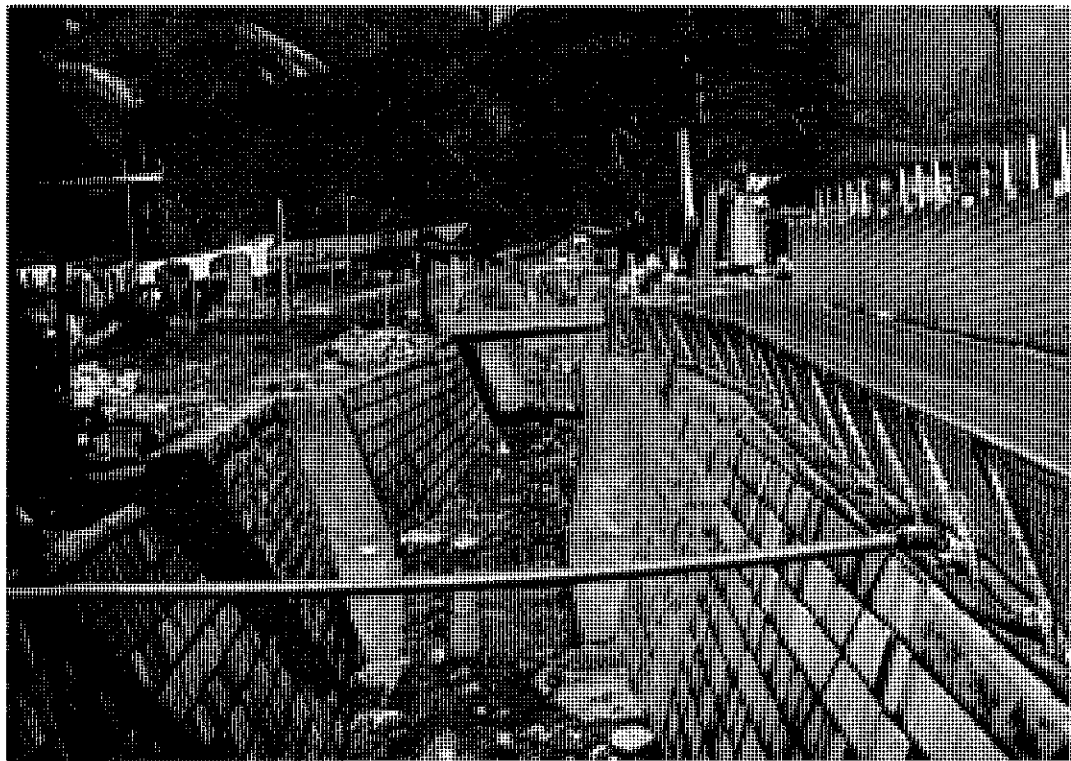
復旧なった同附近

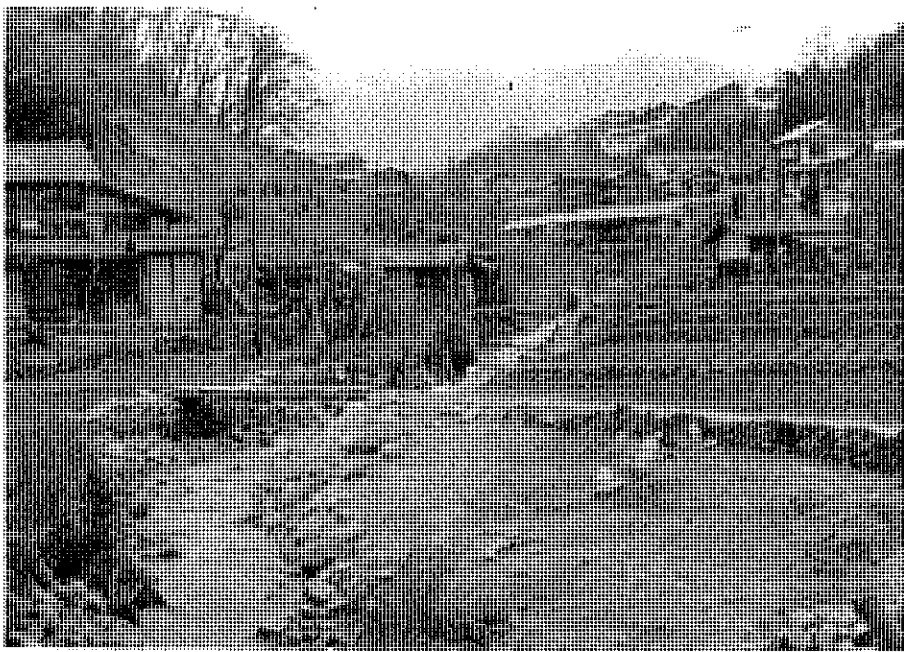


王滝寺川 飯田市愛宕町

工事費	250,715千円
助成費	202,926千円
災害費	47,789千円
流路工	L=4270m
落差工	41基
帯工	20基
橋りよう	54基

しゅん工

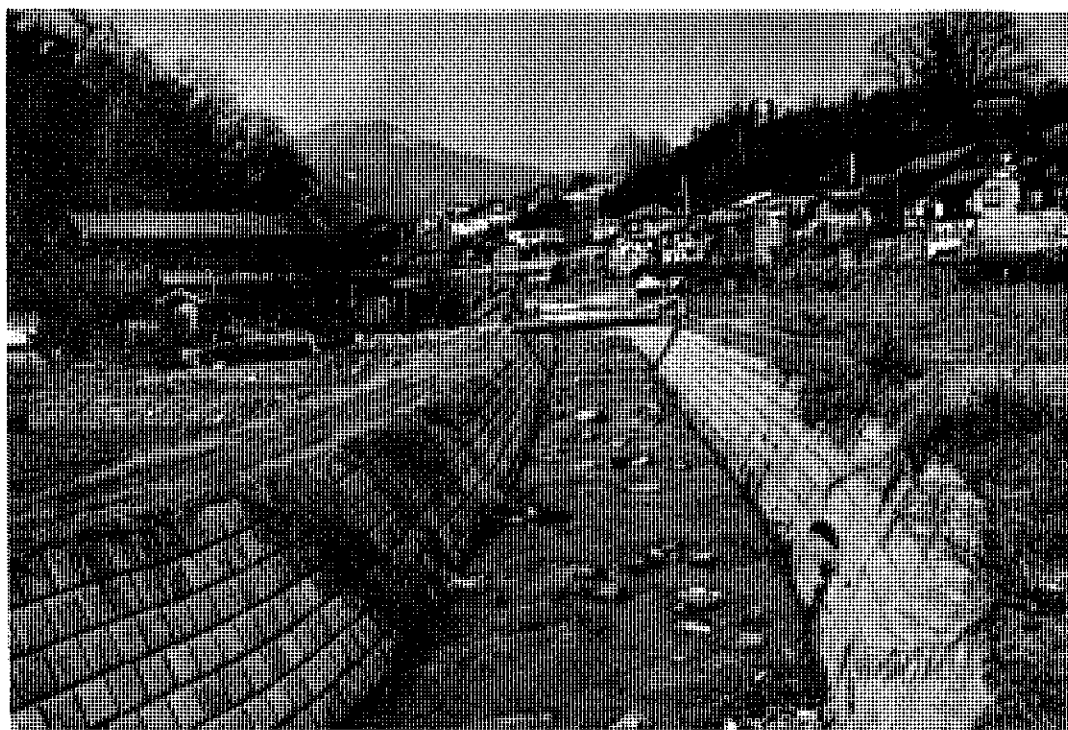


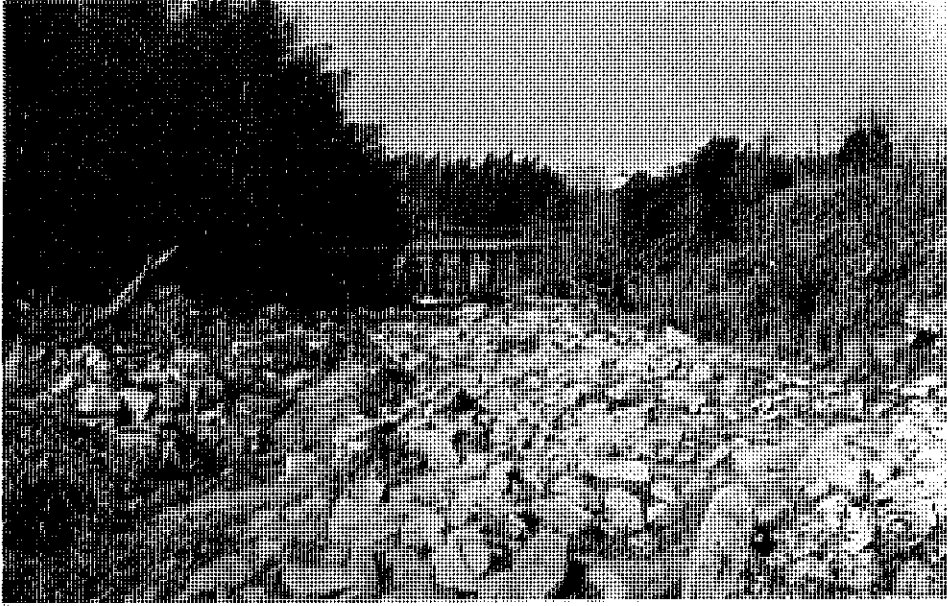


谷川 飯田市東中央通り

工事費	28,934千円
災害費	15,240千円
関連費	13,694千円
延長932m	法長2.24m
落差工	3基
帯工	12基
橋りょう	1ヶ所

しゅん工





しゅん工

天龜川支土曾川 飯田市宮崎
(河川)

工事費 240,652千円

流路工 長3,237m

落差工 28基

帯工 43基

(橋りょう)

工事費 13,569千円

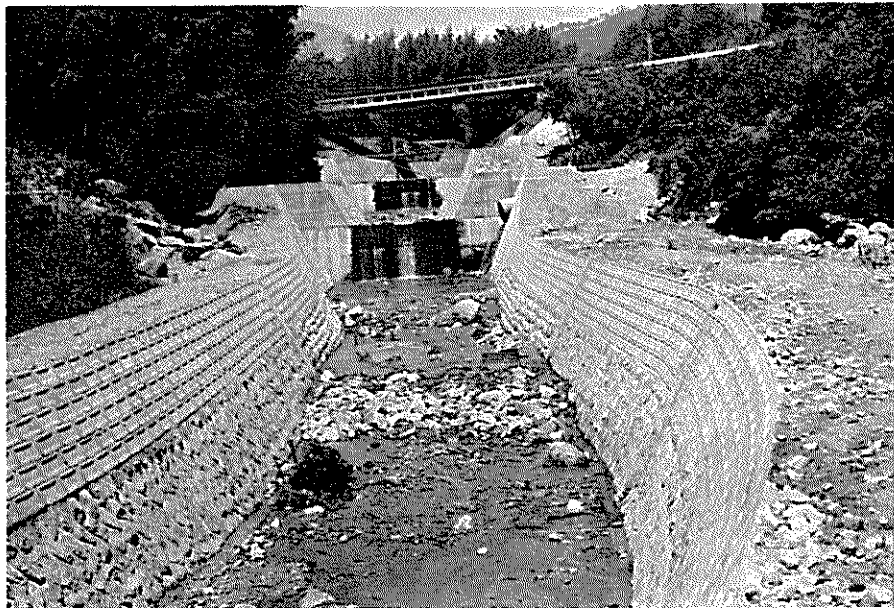
災害費 9,108

関連費 4,461

鉄筋コンクリート橋

長 30.0m

巾 6.0m



南大島川

飯田市 南大島

工事費 267,234千円

流路工長 3,884m

落差工 27基

帯工 28基



宮崎橋 県道飯島～飯田線 飯田市宮崎

事業費(災害関連工事)

事業費 13,569千円

災害費 9,108千円

関連費 4,461千円

工事概要 R C

桁長 30.0m

幅員 6.0m





しゆん工

大島川

下伊那郡高森町清東第
12区

工事費 289.425千円

流路工 3,180m

床止工 6基

落差工 37基

帯工 89基

水制工 6基



泉
円
円

被災

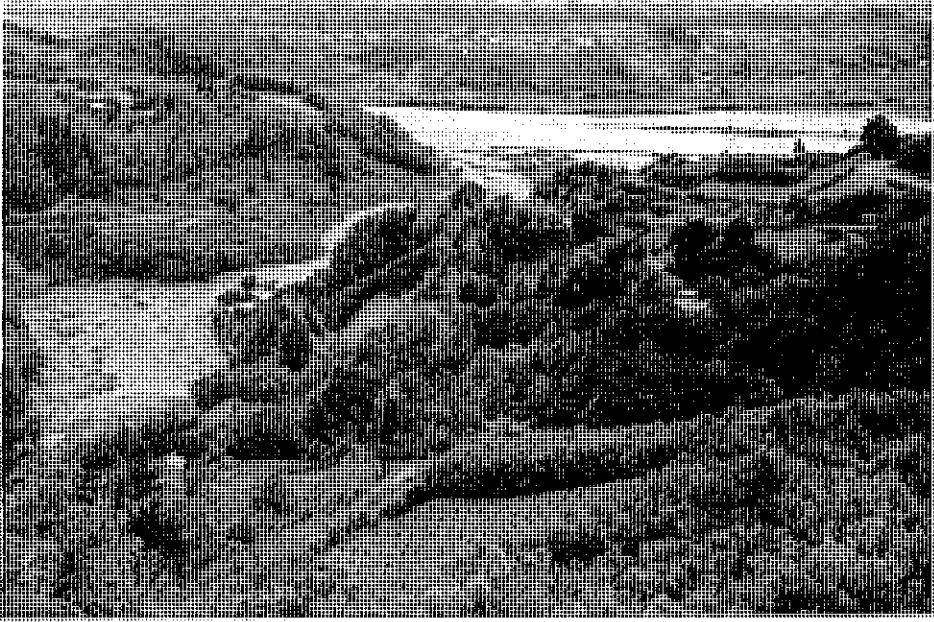


田沢川高森町駒場

工事費	155,197千円
流路工	2,900m
床止工	6基
帯工	47基

しゅん工





天竜川支間沢川

上伊那郡 松川町 福与

工事費 74,206千円

流路工長 940m

落差工 5基

帯工 12基

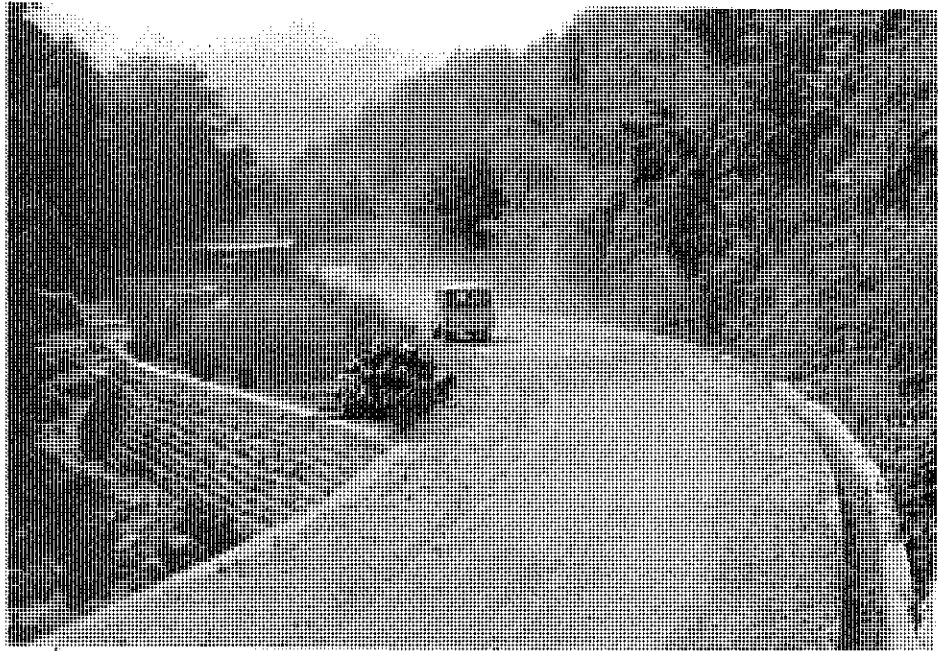
橋りょう 1ヶ所

しゅん工





工 ン ン



主要地方道飯田茅野沢

下伊那郡 松川町 福与

工事費 91,241千円

関連費 83,695千円

災害費 12,749

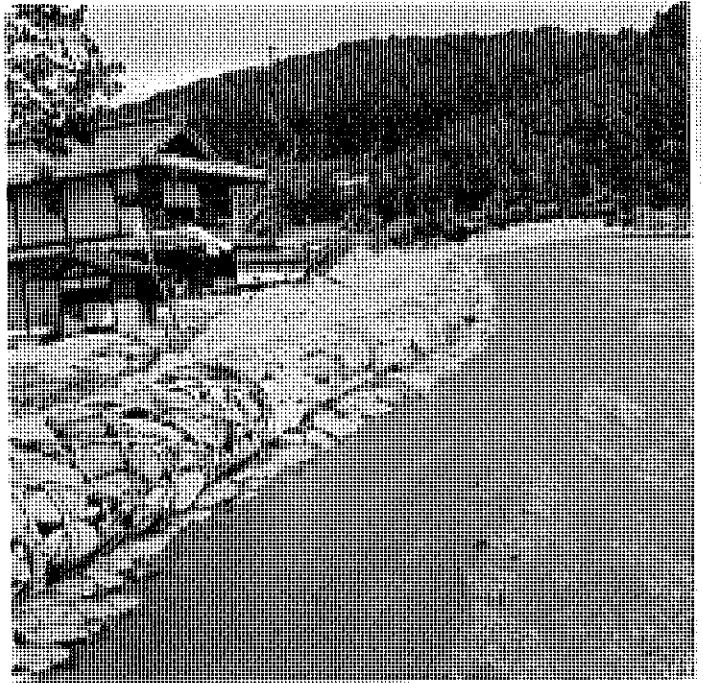
道路築造工

長 3,540

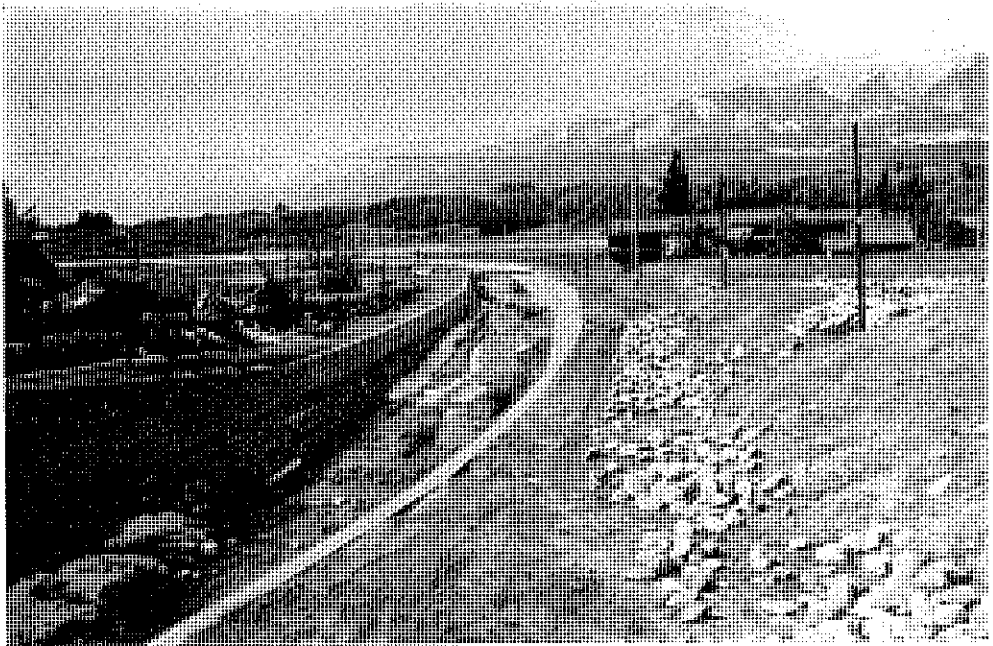
幅員 7.5m

福沢川 松川町福沢

工事費	35,468千円
災害費	31,631千円
間連	3,837千円
流路工	610m
築堤工	1基
帯工	15基
橋りょう	1基



しゆん工



県道 飯島～飯田線 下伊那郡高森町追分橋

工事費 14,641千円

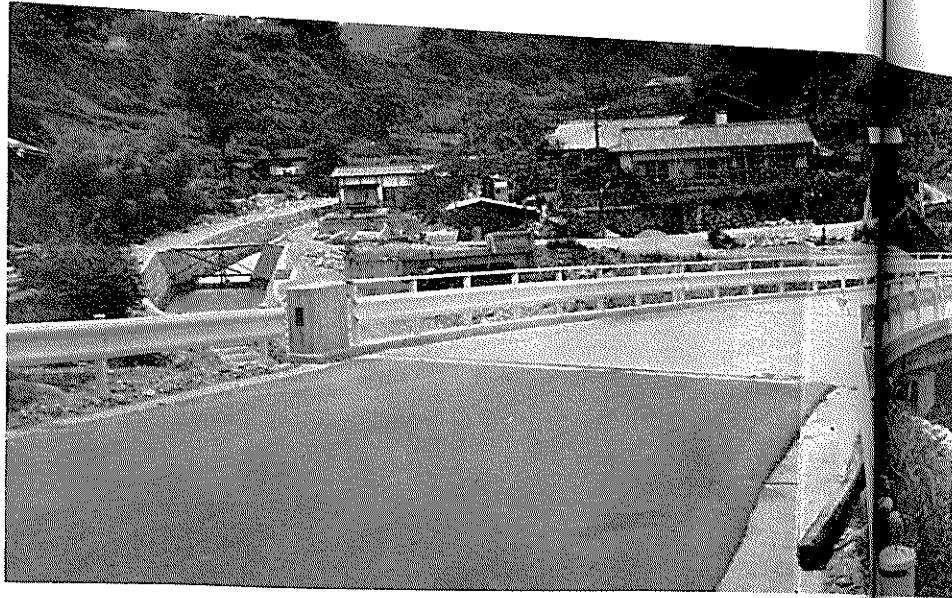
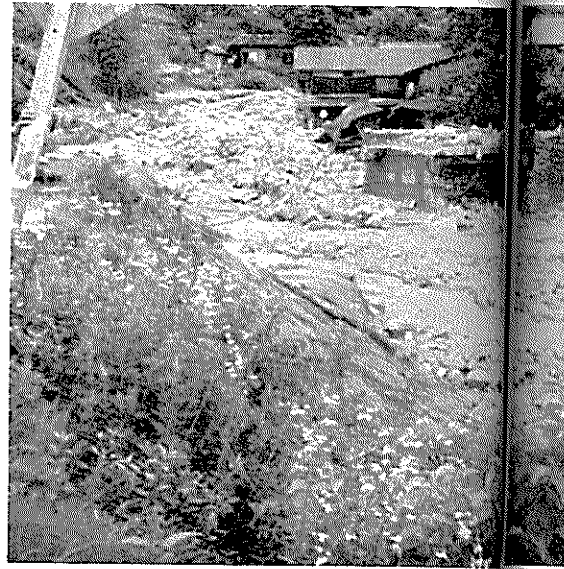
橋りょう整備 11,571千円

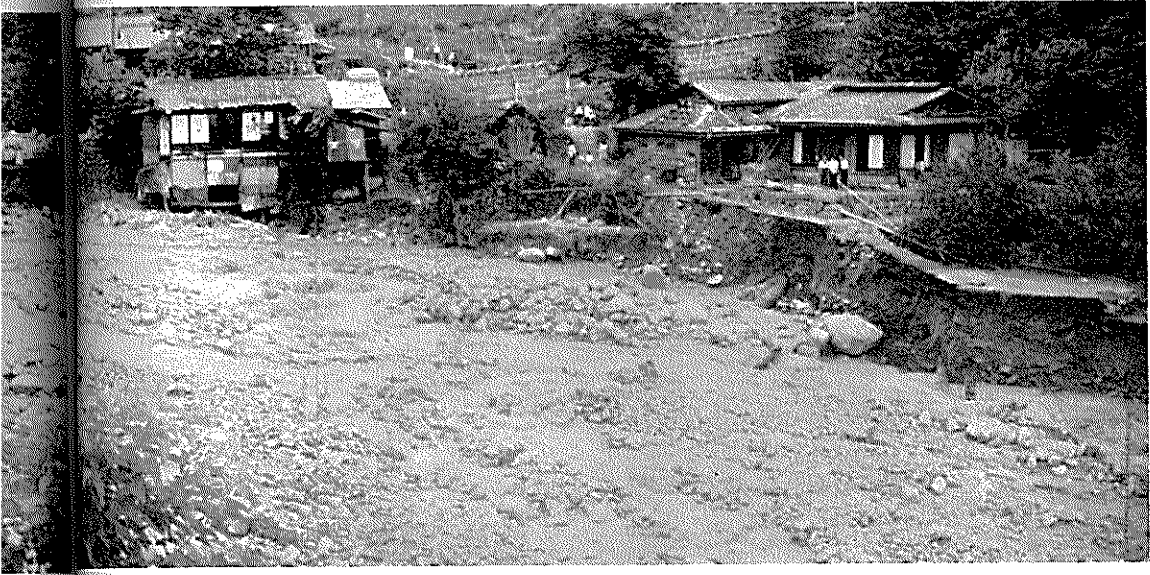
災害費 3,070千円

鉄筋コンクリート3連Tけた橋L=30.35m

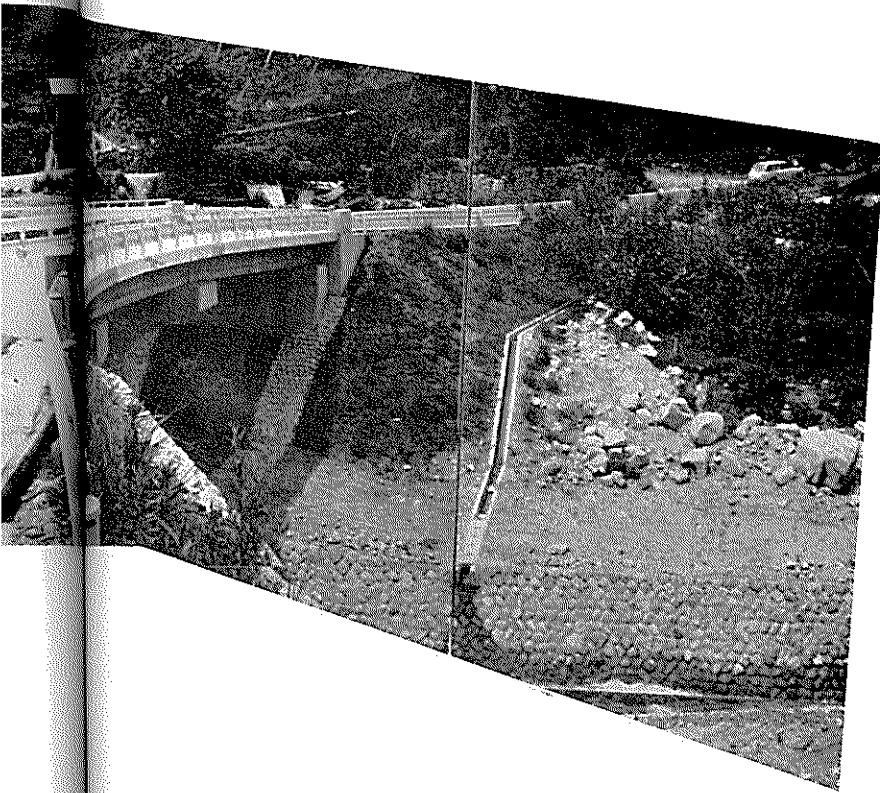
幅員=6.0m

取付道路 145.52m

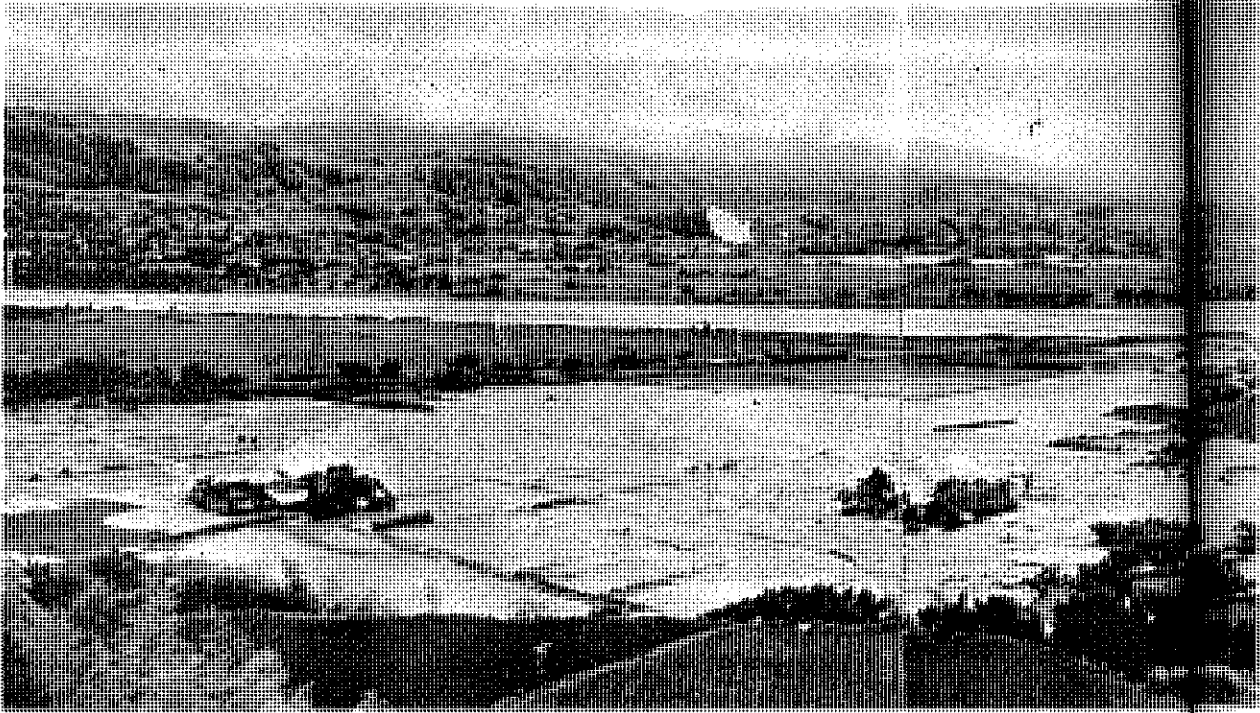




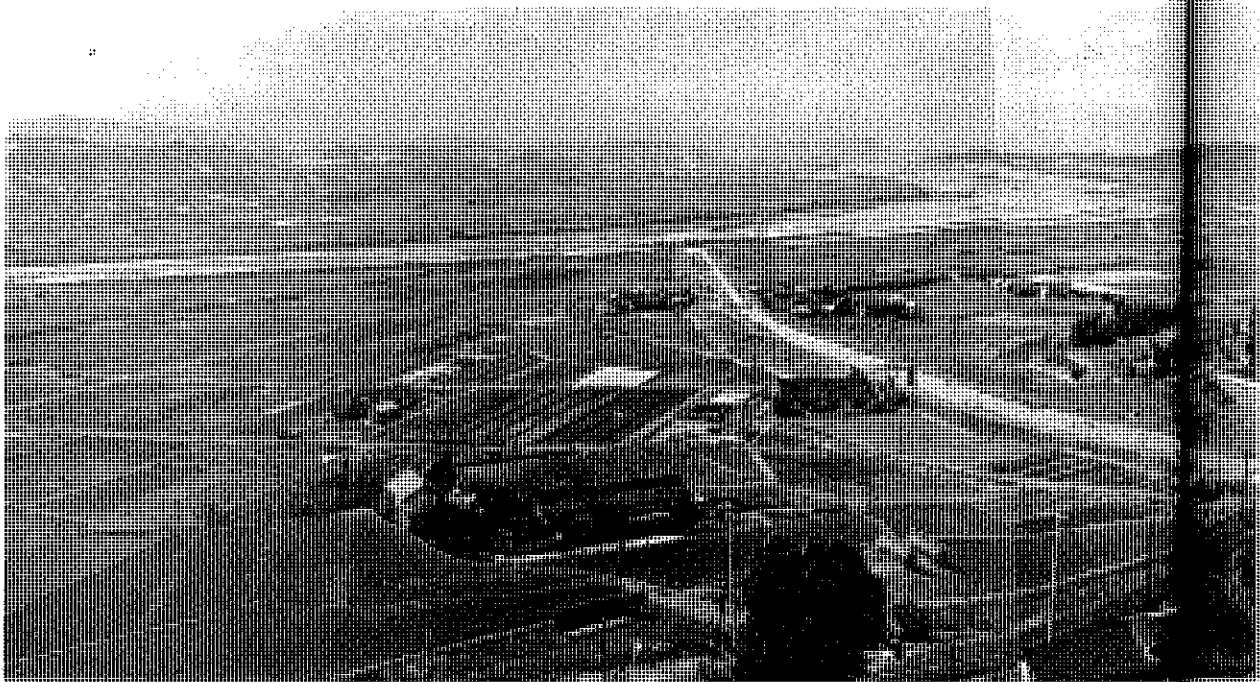
しゅん工

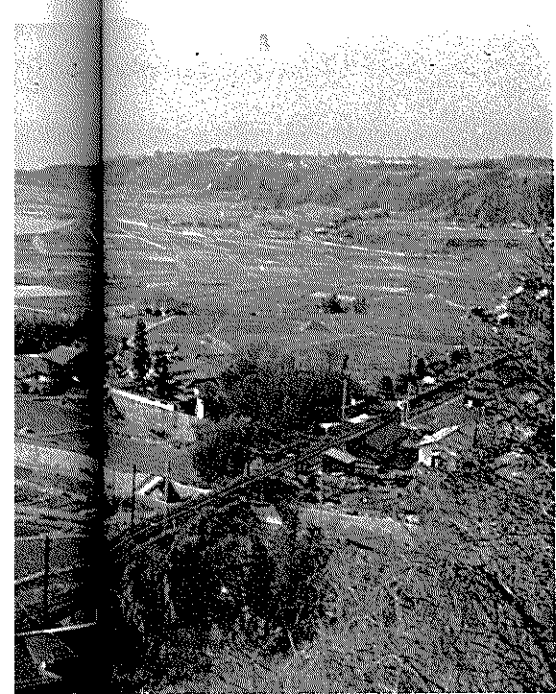


瀬田川を渡る新大橋



瀬田川を渡る新大橋





大沢川 高森町山吹

工事費 77,183千円

災害費 45,221千円

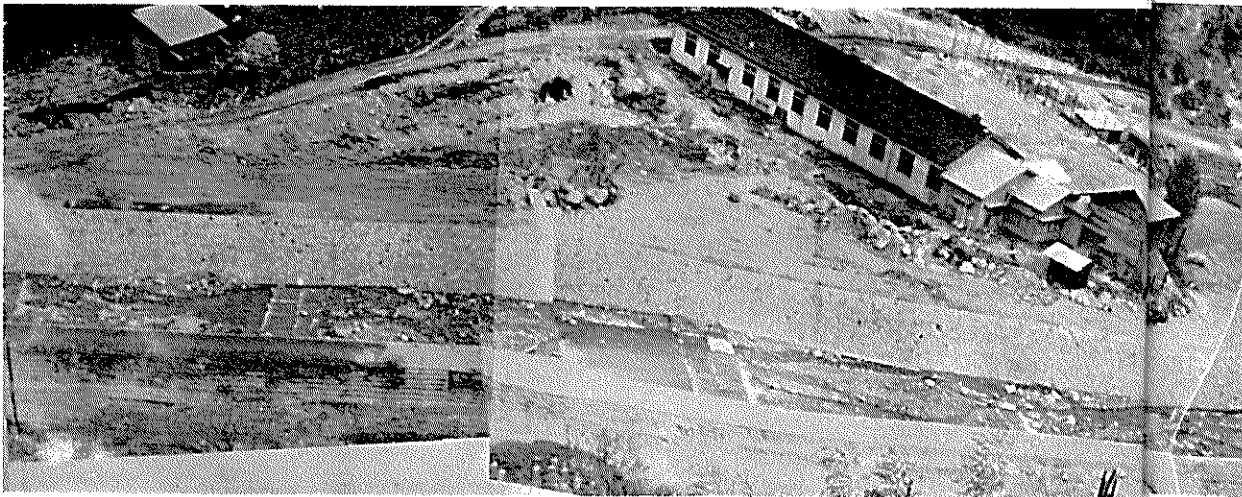
助成費 31,962千円

流路工 延長1,420m 法長5.18~3.46

床止工 12ヶ所 帯工 30ヶ所



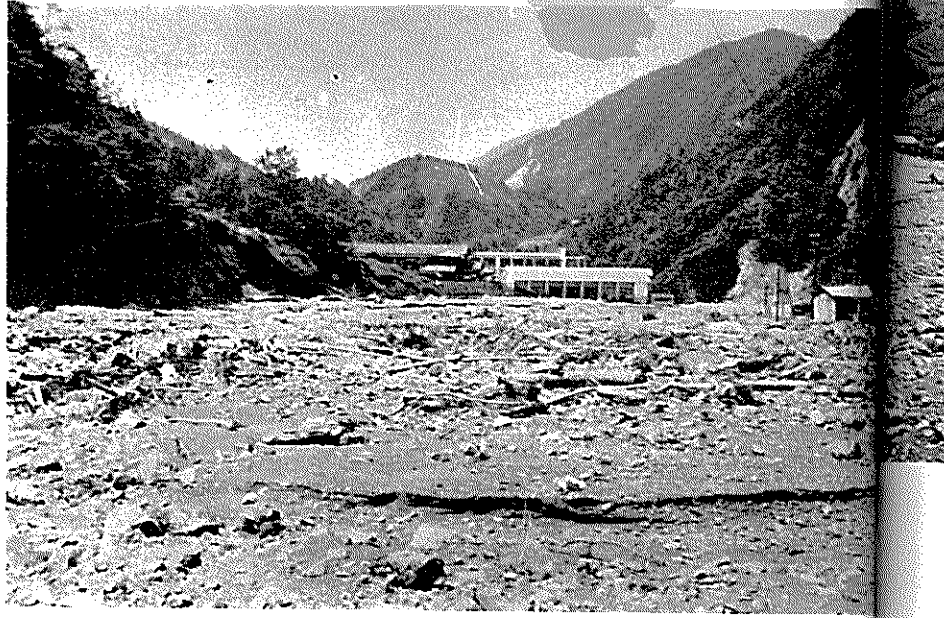
工 人 村





天竜川小渋川支四徳

工事費 397,343千円
築堤工 長4,472m
法長5.37~3.17m
落差工 28基
帯工 169基
道路築造工3,973m



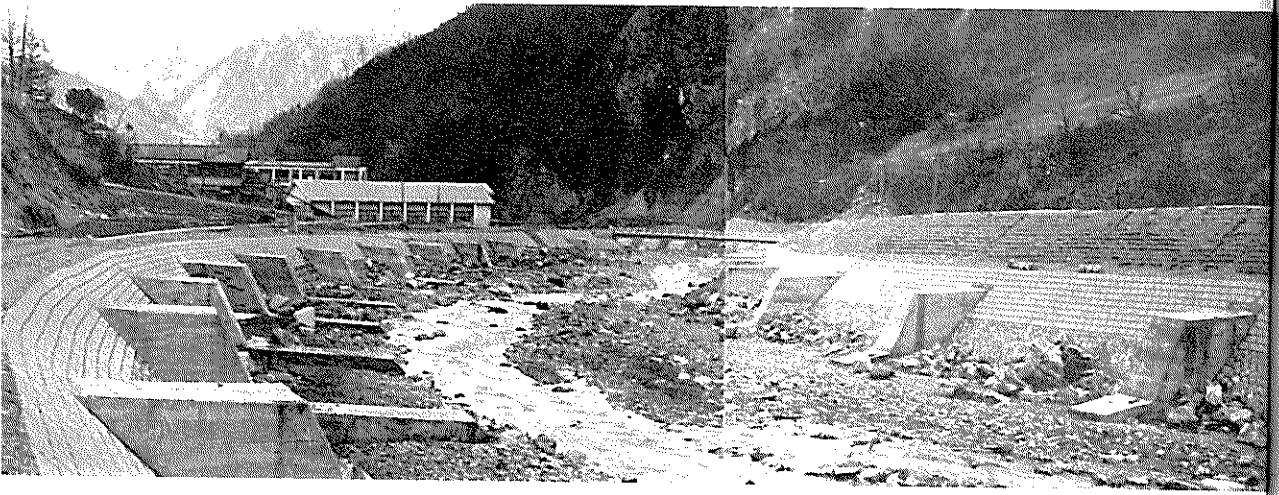
鹿塩川 大鹿村落合～大栗

工事費 67,568千円

築堤工 長4,181.5m 法長5.1m

歯型工 147カ所 落差工 11基 帯工 10基

しゅん工

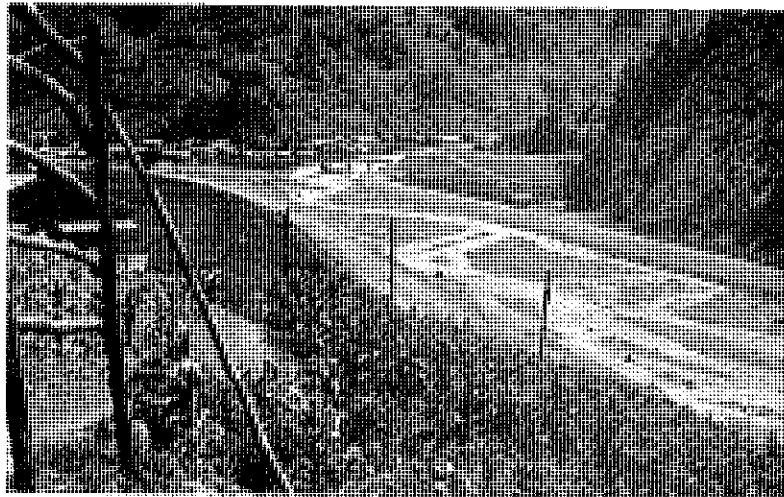
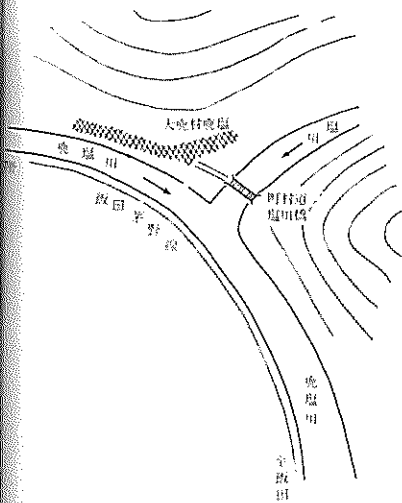




土石流のため河床上昇し道路，耕地は一面河原と化した大鹿村鹿塩部落の惨状

鹿塩川 下伊那郡大鹿村落合～大栗

工事費	675.768千円	
築堤工	長4,181.5m	法長5.1m
苗型工	139ヶ所	
落差工	11基	
帯工	10基	



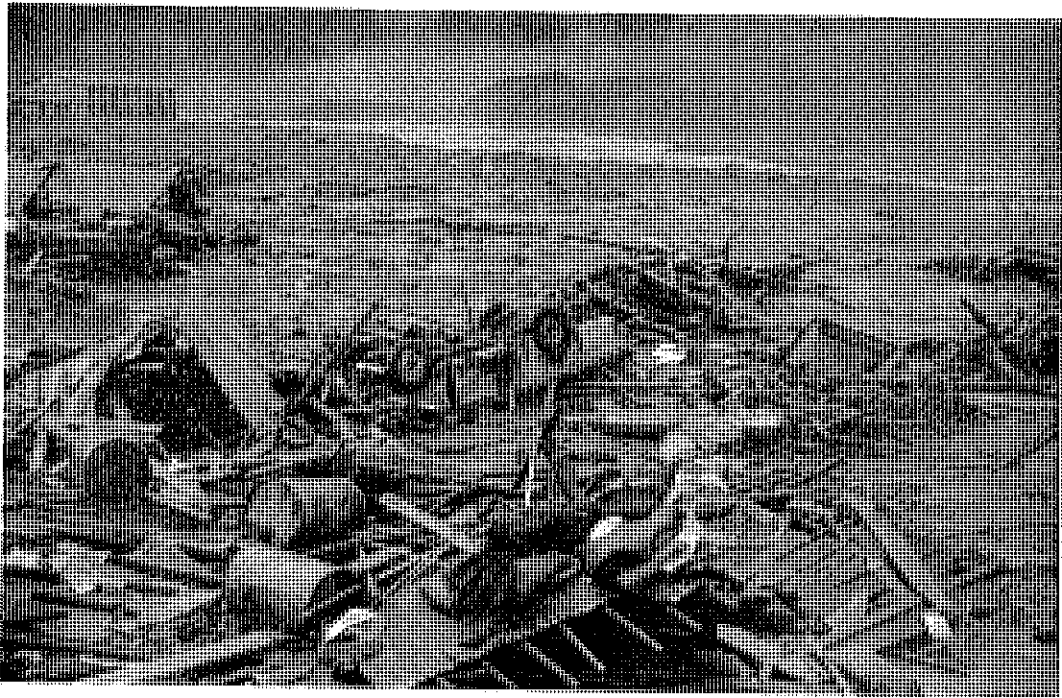
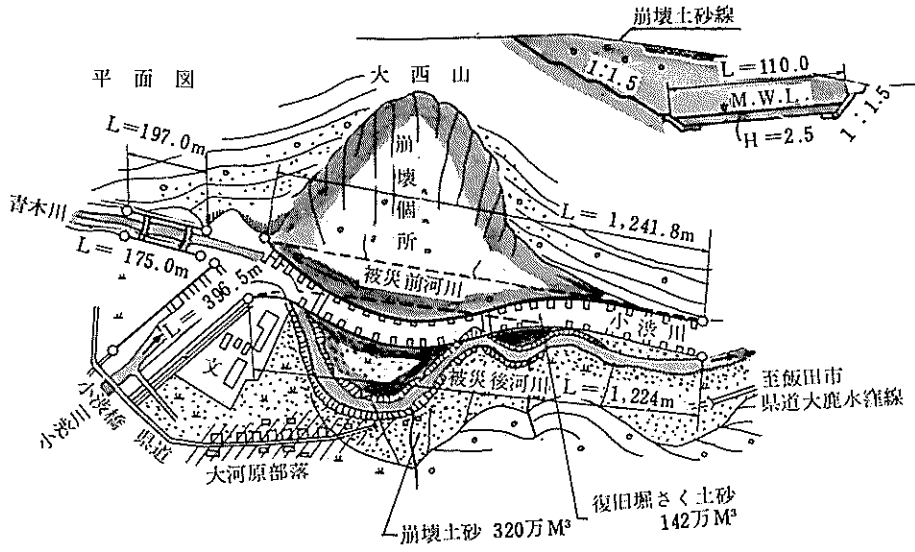
しゆん工



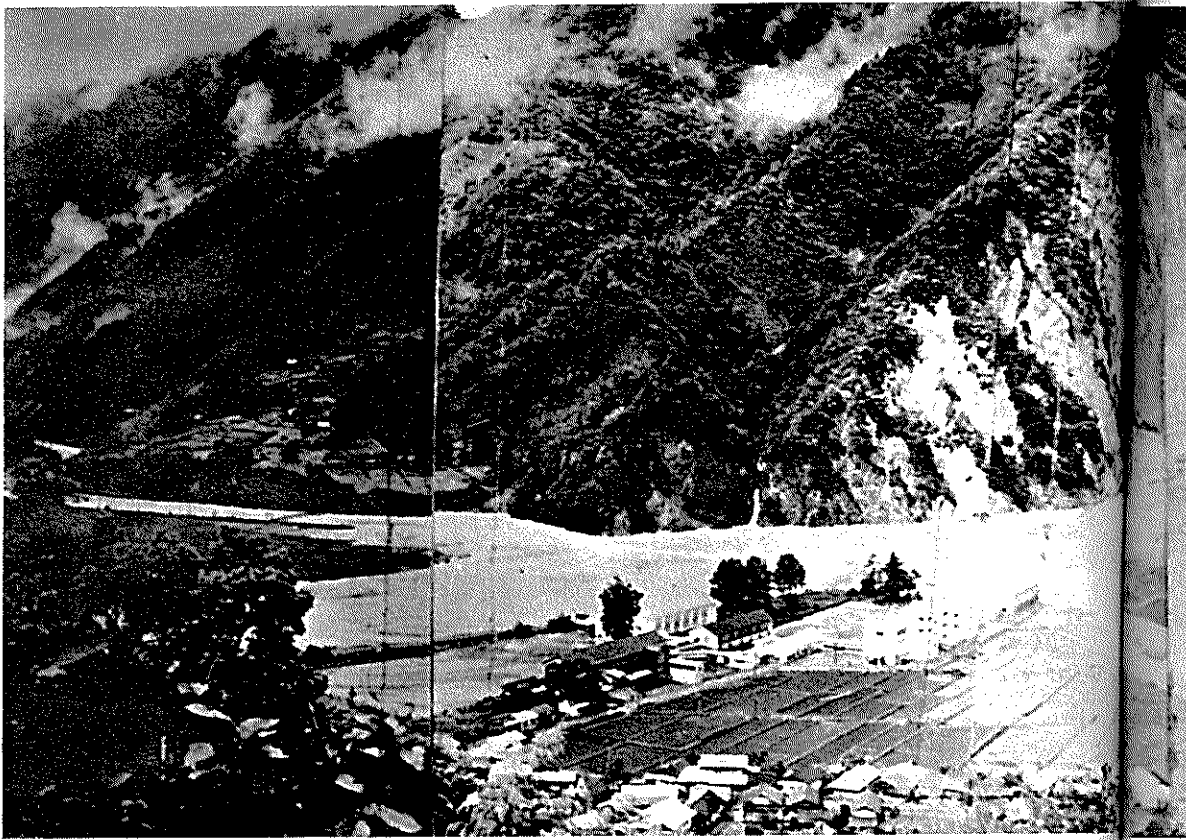
小渡川 下伊那郡大鹿村大河原

工事費	933,766千円	
流路工	小渡川	L = 1,755m
	青木川	L = 380m
堀削工	1,421,740m ³	
蛇籠工	2,465.8m	
	{左	1,241.8m
法粹工	2 187.1m	
	{右	1,224.0
植生盤	38,160.8m ²	
床止工	2基(6脚ブロック)	
根固工	971.5m(6脚ブロック)	

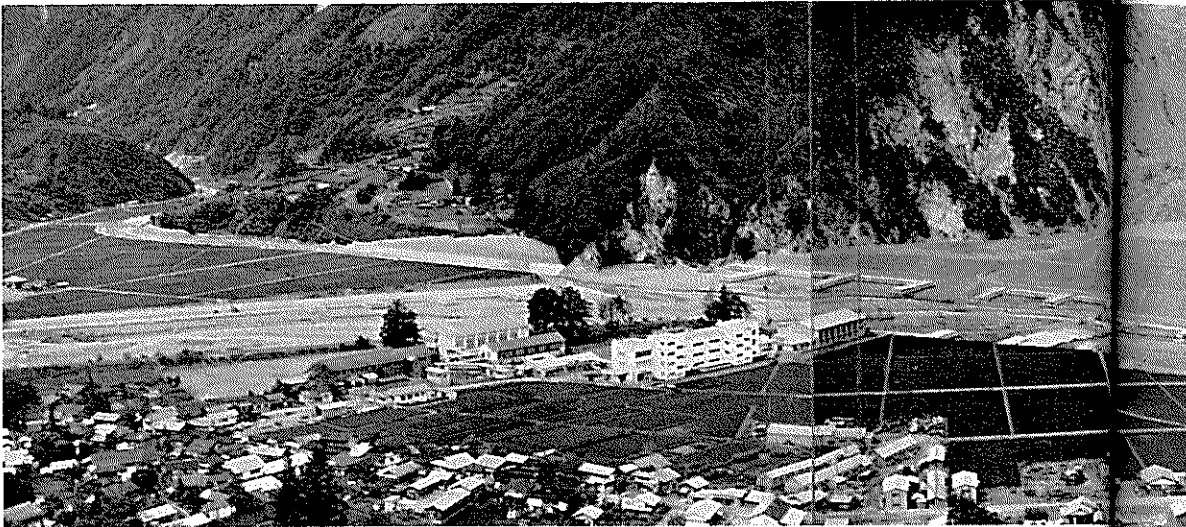
横断面



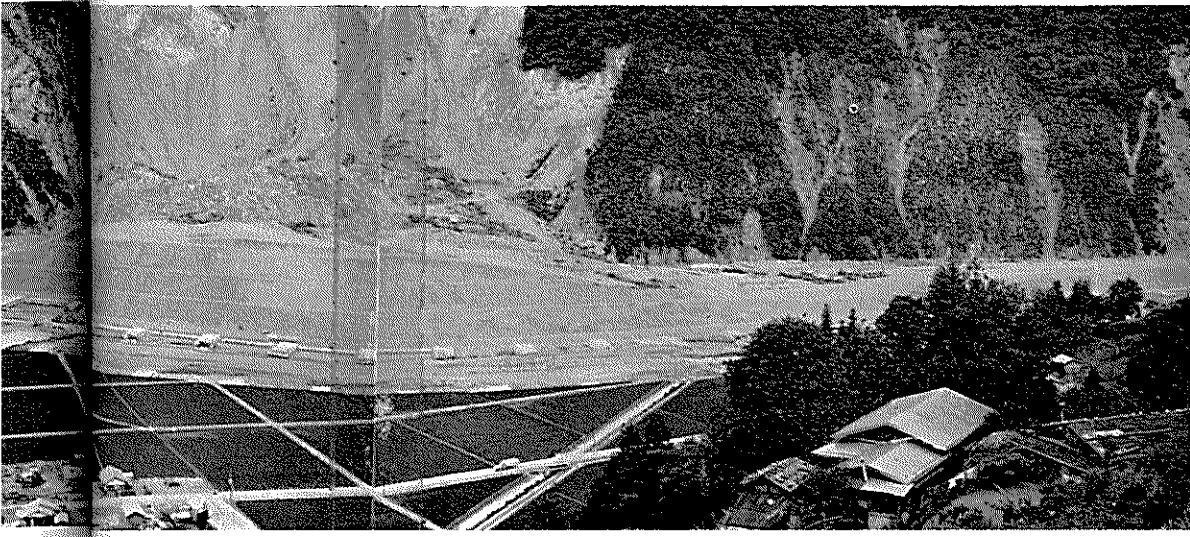
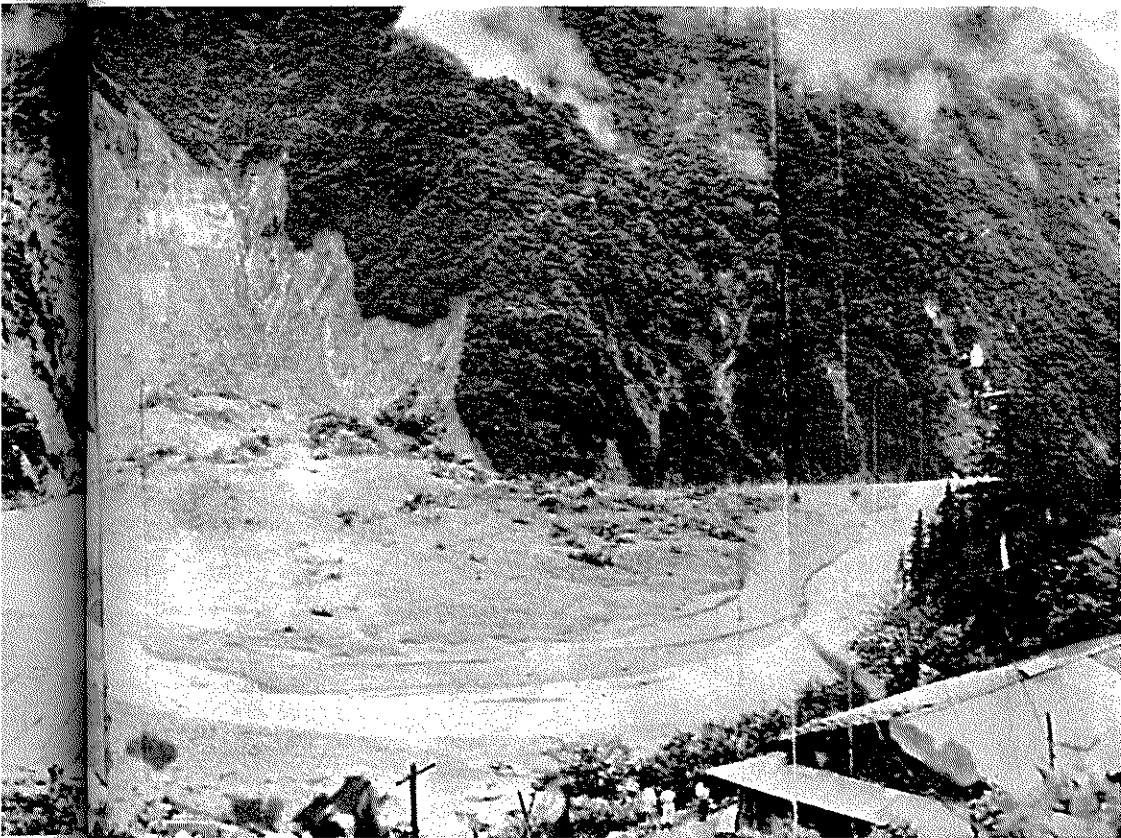
大西山の大崩壊により田畑人家は一しゅんにして流失した

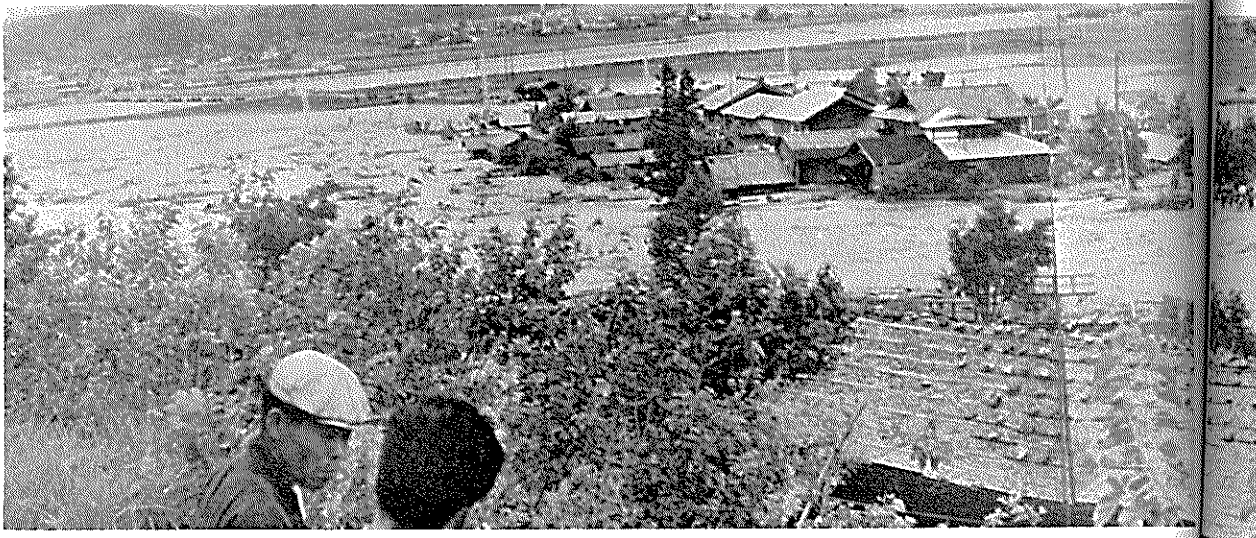


下伊那郡大鹿村大河原被災状況

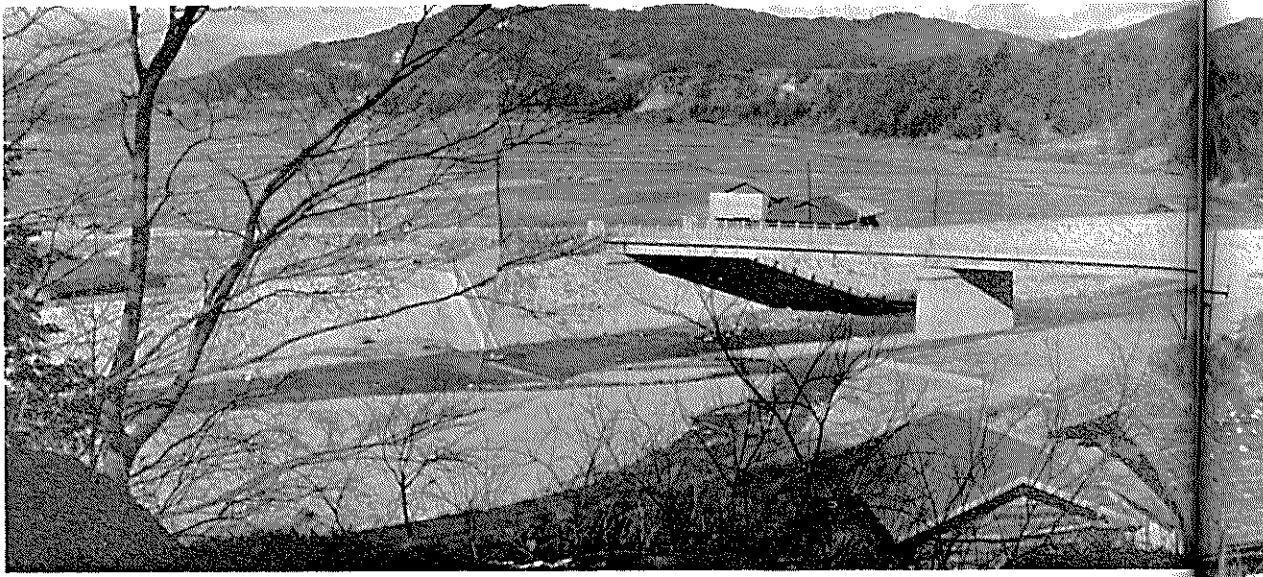


復旧なった同地区





被 災





天竜川支新宮川駒ヶ根市中沢1号

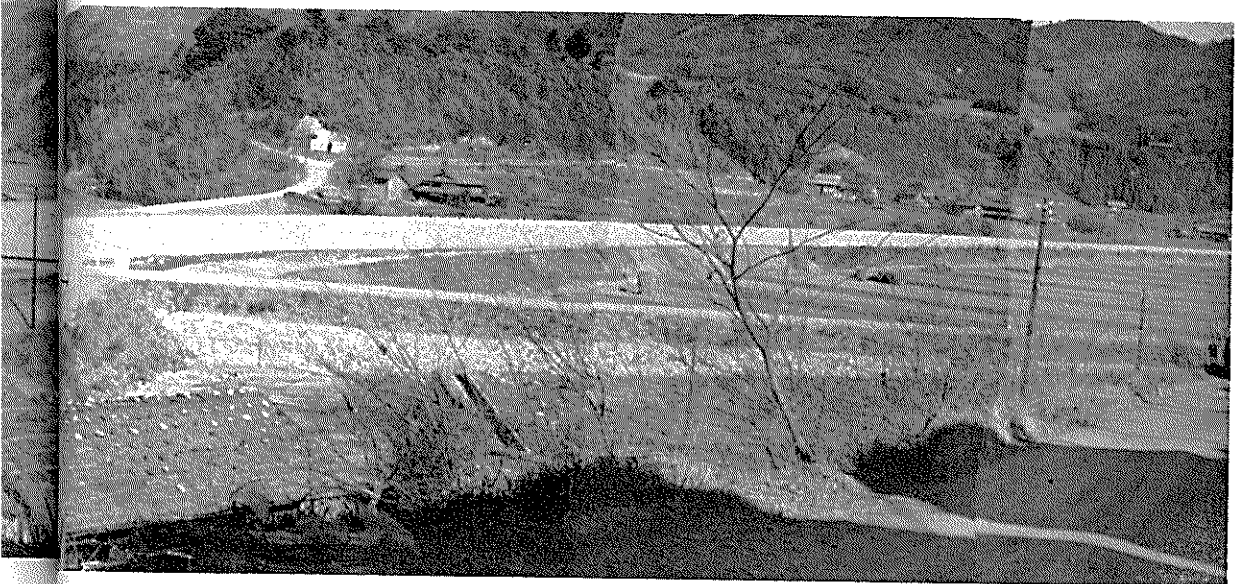
工事費 152,684千円

流路工 長1,690m 法長5.2~8.5m

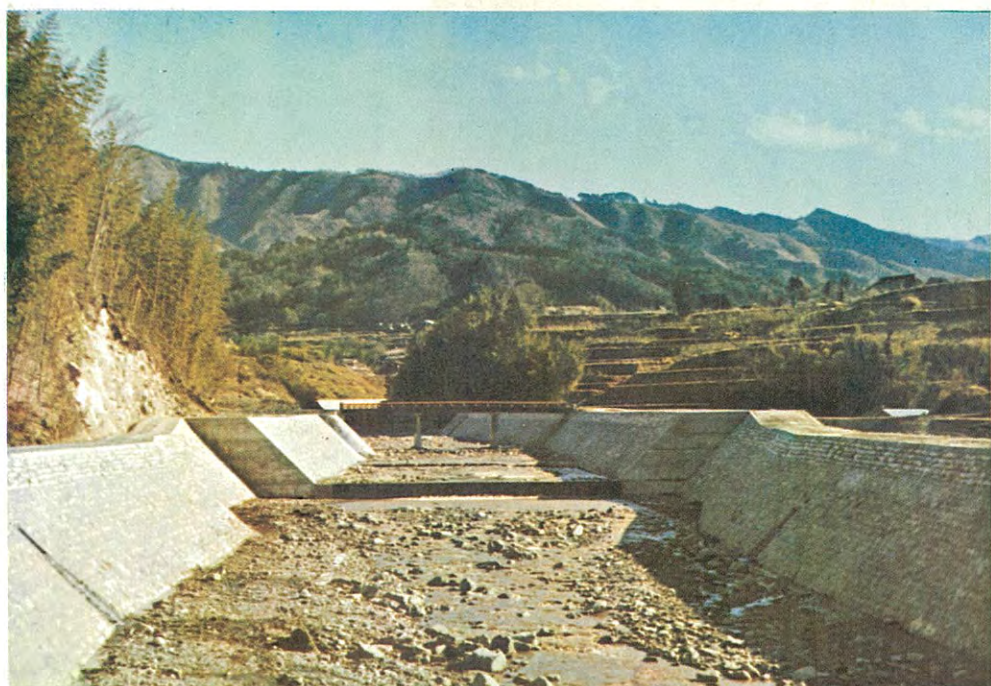
落差工 3基

帯工 13基

橋りよう工 1ヶ所

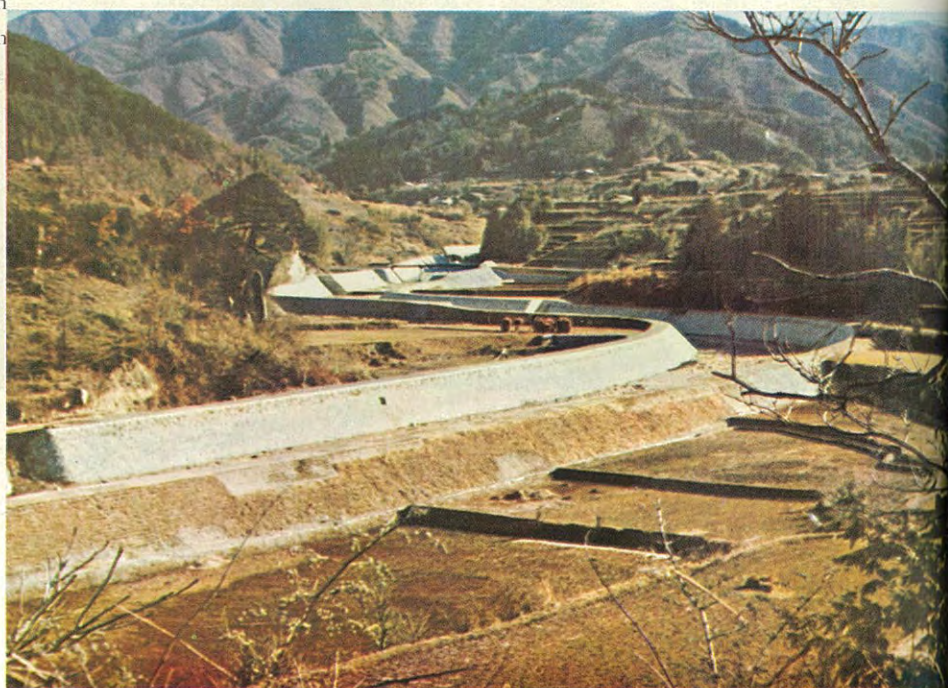


しゅん工



新宮川 駒ヶ根市中湯4号

工事費	73,612千円
流路工	長 815m
	法長 6.4m
	落差工 3基
	帯工 10基
	谷止工 1基





被 災

新宮川支百々目木川 駒ヶ根市百々目木2号

工事費 41,505千円

流路工 長895m

床止工 13基

道路築造工一式



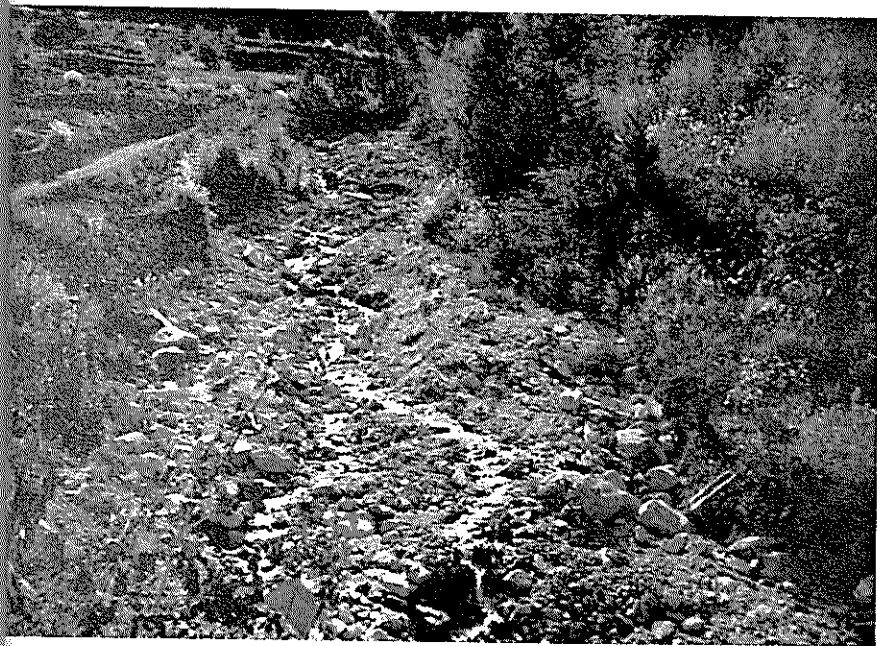
し ゅ ん 工



所宮川 上伊那郡駒ヶ根市
 中沢6号
 決定工費 179.646千円
 流路工 長1,615m
 法長1.5~3.9m
 落差工 20基
 帯工 31基
 橋りょう 21ヶ所
 (西伊那沢落合橋)



伊那生田飯田線 上伊那郡中川村赤坂橋
 工事費 8,233千円
 橋長 23.0m
 幅員 5.5m



(市町村工事)

唐山沢 駒ヶ根市字唐山

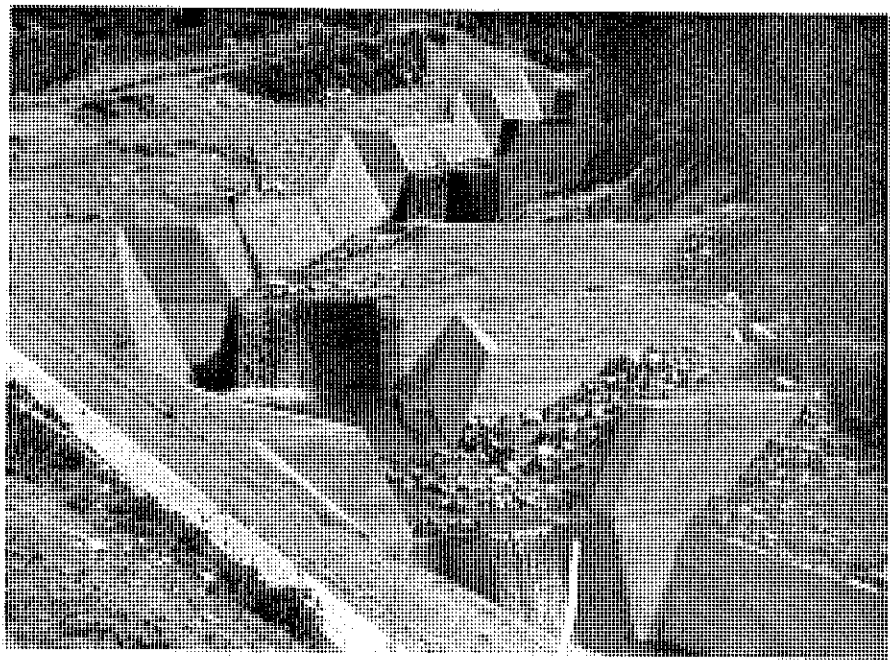
工事費 63,441千円

流路工 延長88.0m

落差工 17基

谷止工 1基

しゅん工



被災



(市町村工事)

熊堂沢 上伊那郡長谷村熊堂沢

工事費 31,723千円

流路工 長337.3m

築堤工 1基

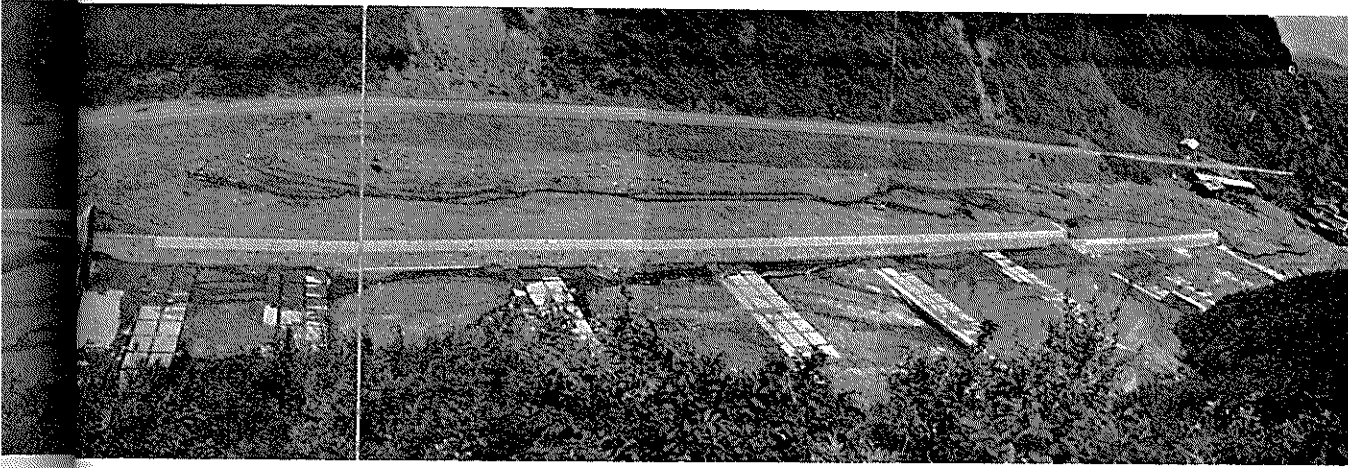
床止工 7基

帯工 10基

しゅん工



主



被災



主要地方道飯田茅野線

上伊那郡長谷村栗沢

工事費 173,795千円

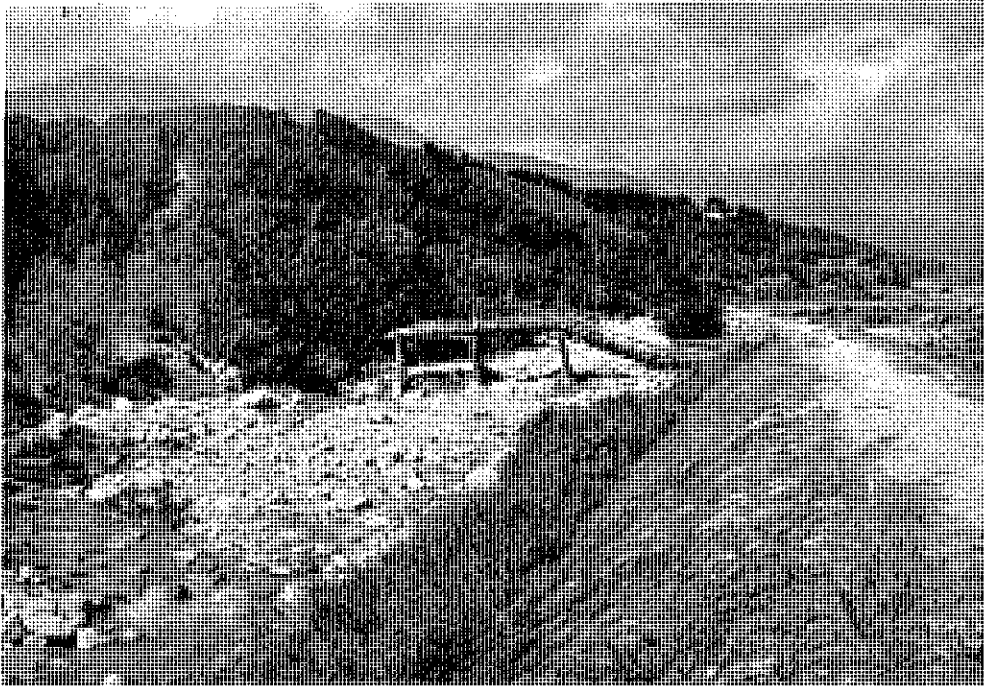
道路築造工 長2,417m

幅員 5.5m

橋りょう 1ヶ所

床止工 31基

支川谷止 9基

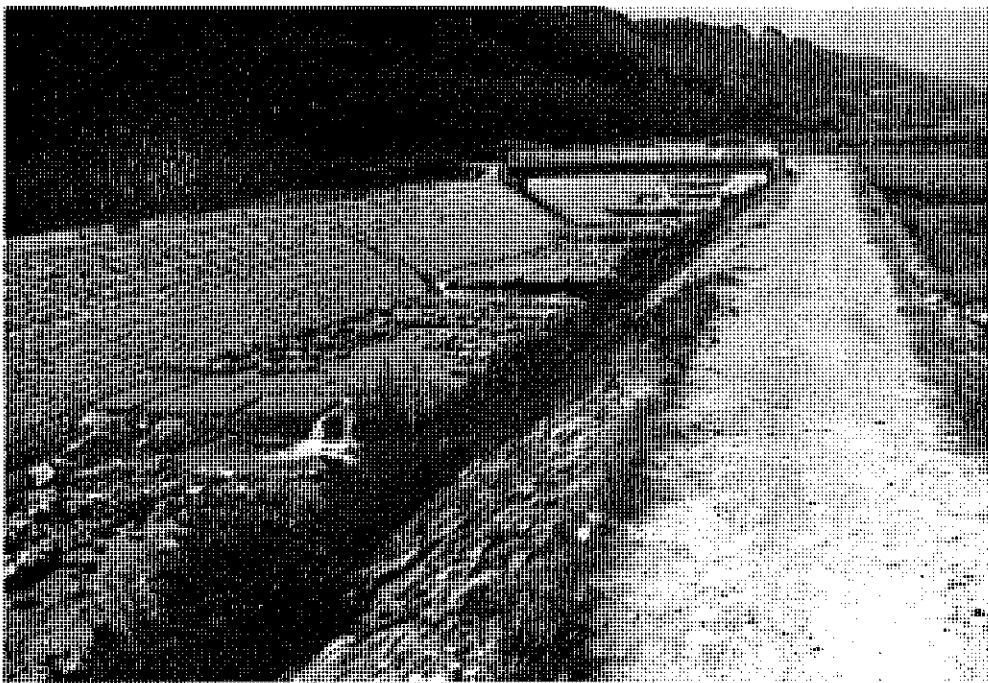


災害助成事業 前沢川 上伊那郡中川村中通～上前沢

工事費	132,012千円	内災害費	96,191千円
		助成費	28,288 //
		その他	7,593 //

護岸工	長	2380m
	えん提工	1基
	帯工	69基
	町村橋りょう	5橋

しゅん工



(市町村工事)

大 汀 沢

上伊那郡 長谷村 大汀沢

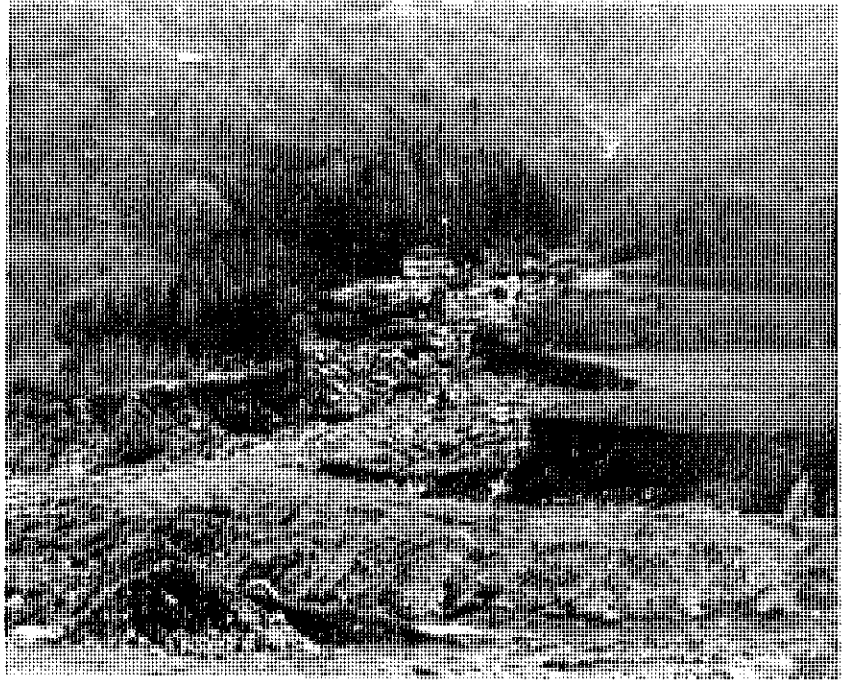
工事費 21,806千円

流路工 長 300.8m

法長 2.23m

床止工 11基

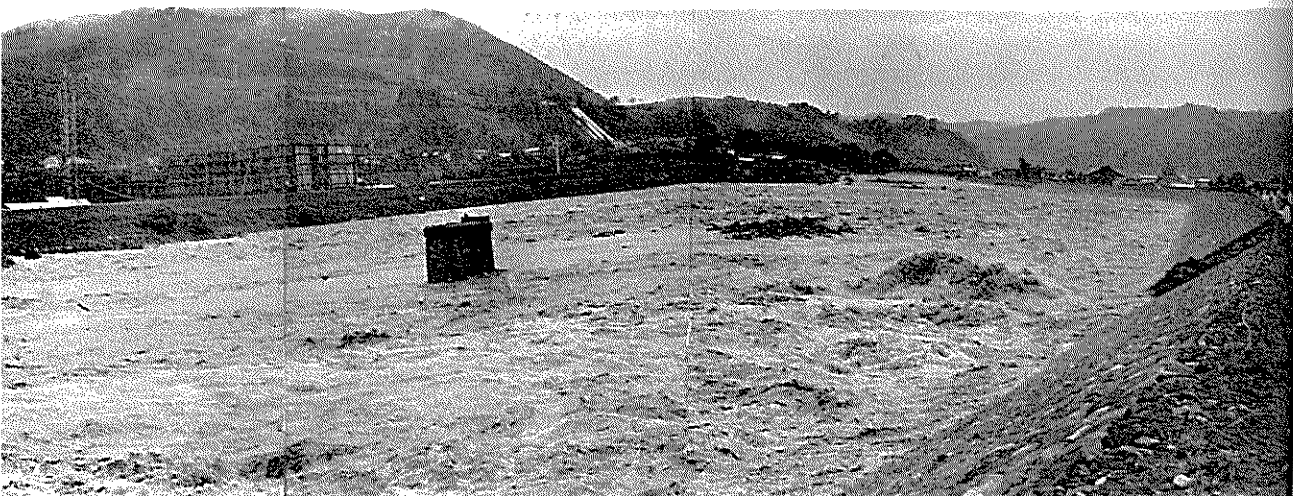
帯 工 3基



被 災



し ゆ ん 工



千曲川の濁流に吐まれ流失した宮前橋

上畑佐久穂積(停)線

南佐久郡 八千穂村 宮前橋

工事費 33,034千円

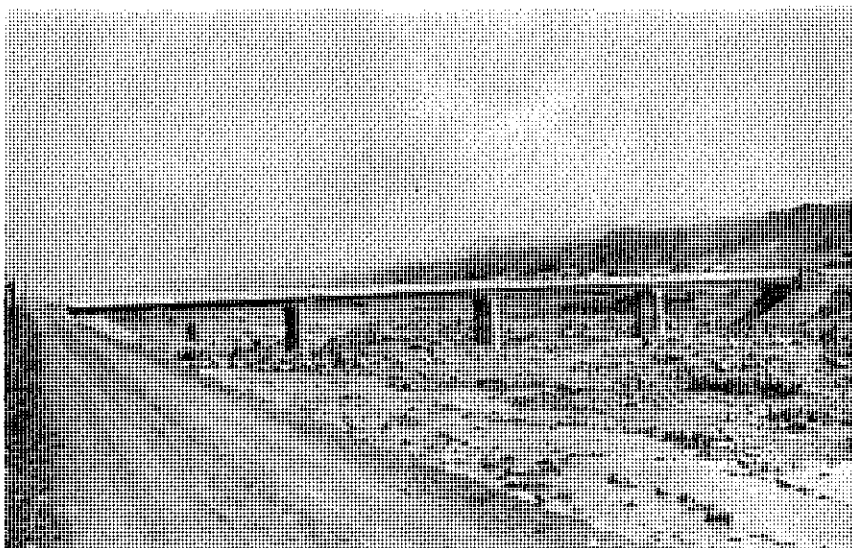
内災害費 24,175千円

関連費 8,859千円

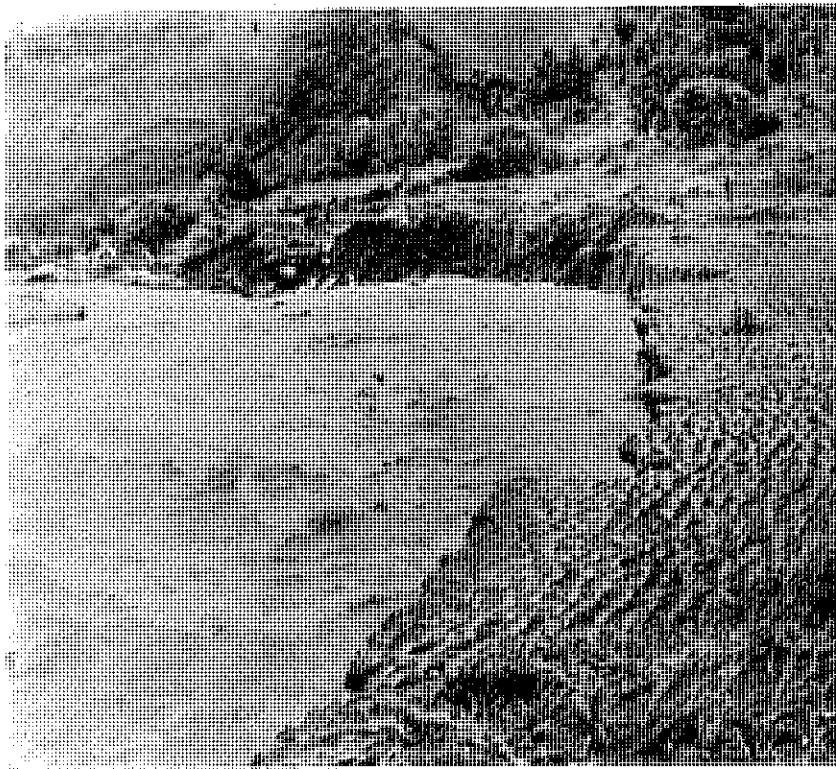
プレストレスコンクリート
橋

橋長 112.2m

幅員 4.5m

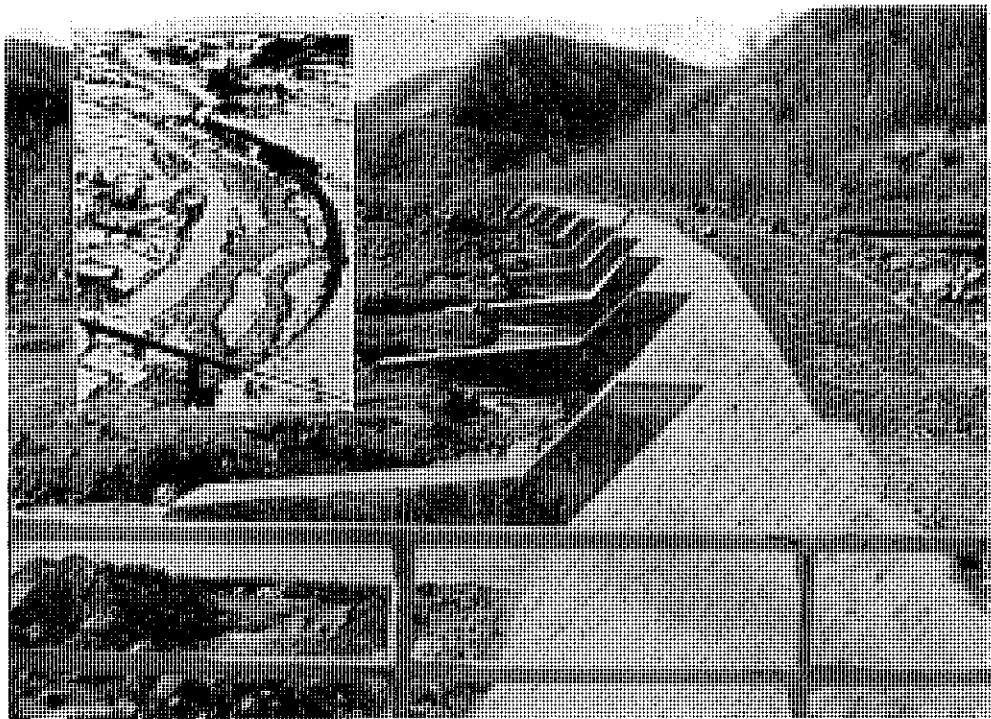


しゅん工なつた宮前橋



千曲川板橋川
 南佐久郡 川上村 樋沢
 工事費 59,168千円
 護岸工 1,270m
 長 { 右岸 856m
 左岸 414m
 法 長 4.7~5.2m
 水制工(齒型工)25組

被災



工 人 仲 士

4—5 特殊緊急砂防事業の概要

今回の災害の状況をみると、上流から押し出された多量の土石によるはんらん、埋没等による被害がいかに多かったかということである。そして、これらの原因となった上流の山崩れや、中流部の河岸の欠壊による多量の土石は、出水の終わった後も、なお河道に異状なたい積をして、次の出水による危険性をはらんでいた。

これらの土砂を下流へ流さないようすみやかに緊急砂防工事の計画が立てられ、昭和39年度までにえん堤97基24億54百万円の砂防工事が行なわれ、上流流域に対して、万全の措置がなされた。

表一39 特殊緊急砂防事業一定計画水系別調査（直轄は含まない）

水 系 名	えん堤数	事 業 費	実 施 額			
			36 年	37 年	38 年	39 年
天 竜 川	63 ^基	1,704,805 ^{千円}	514,395	431,691	367,729	390,990
屏 川	18	322,614	69,950	96,567	99,151	56,946
千 曲 川	7	240,555	18,058	65,976	62,740	93,781
木 曾 川	3	101,030	12,349	36,149	22,108	30,424
姫 川	6	105,852	19,604	23,917	34,472	27,859
計	97	2,474,856	634,356	654,300	586,200	600,000
地 す べ り	21カ所	177,450	49,650	45,000	52,800	30,000
合 計	97 ^基 21 ^{カ所}	2,652,306	684,006	699,300	639,000	630,000



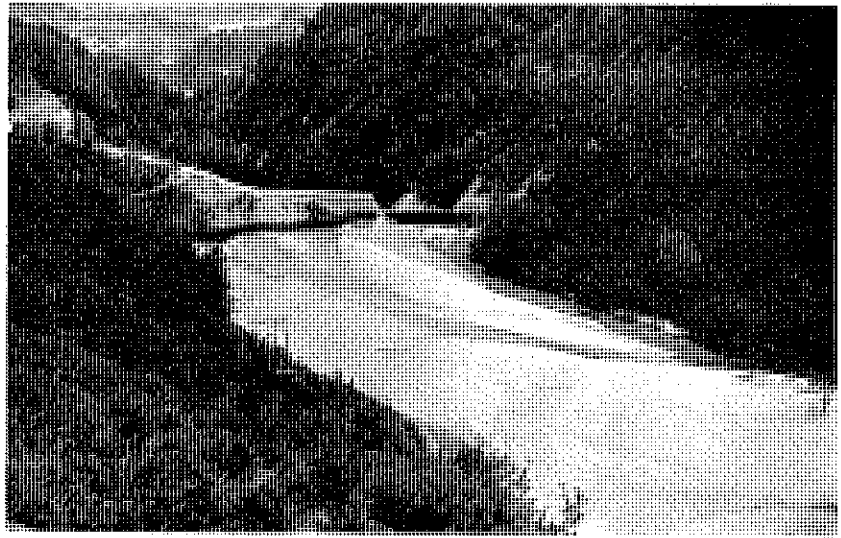
天竜川左岸流域に発生した無数の崩壊群

天竜川と松川

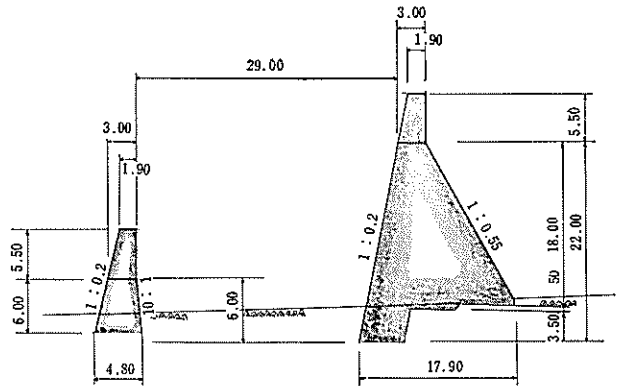
長 117.0m
 幅 22.0m
 貯砂費 332.000 m³
 工事費 81,779千円
 工期 昭36年6月～
 38年3月

本川は昭和8年より砂防工事が行なわれ上流にえん堤2基、下流7,350m間に床固えん堤36基を含む、流路工が完成していたため、

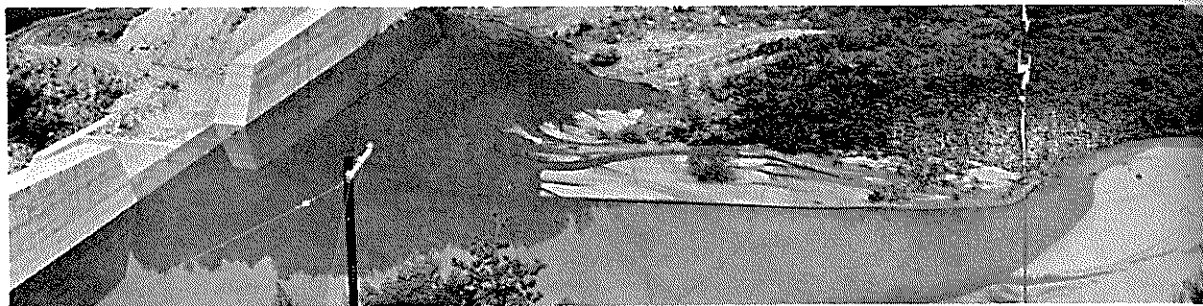
今回の豪雨に際しては、施設の一部に被害があった程度で、沿半の住宅、耕地にはほとんど被害はなかった。構造図1/600



満砂した凡越えん堤

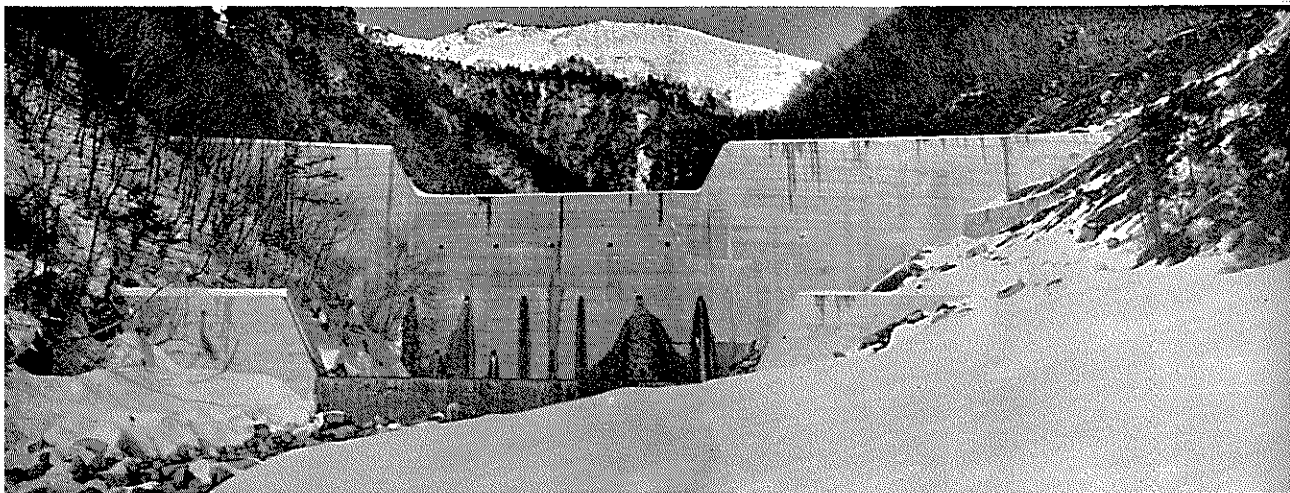


水源附近の崩壊と河道たい積



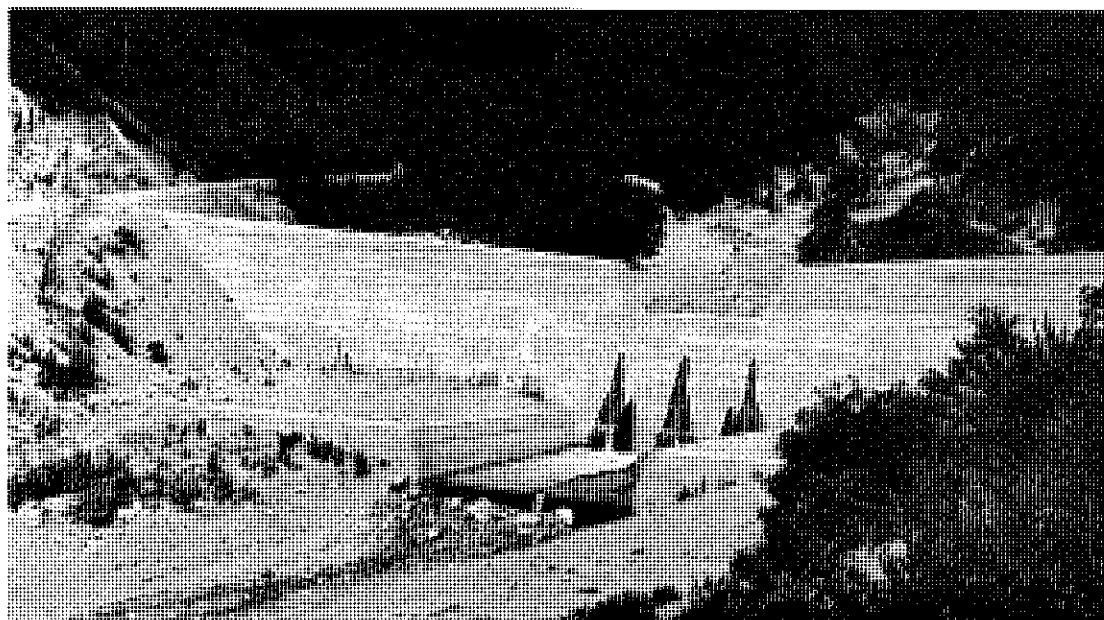
松川支野底川

長	153.0m
高	16.0m
貯砂量	336,000m ³
工事費	79,967千円
工期	昭36年9月~38年11月



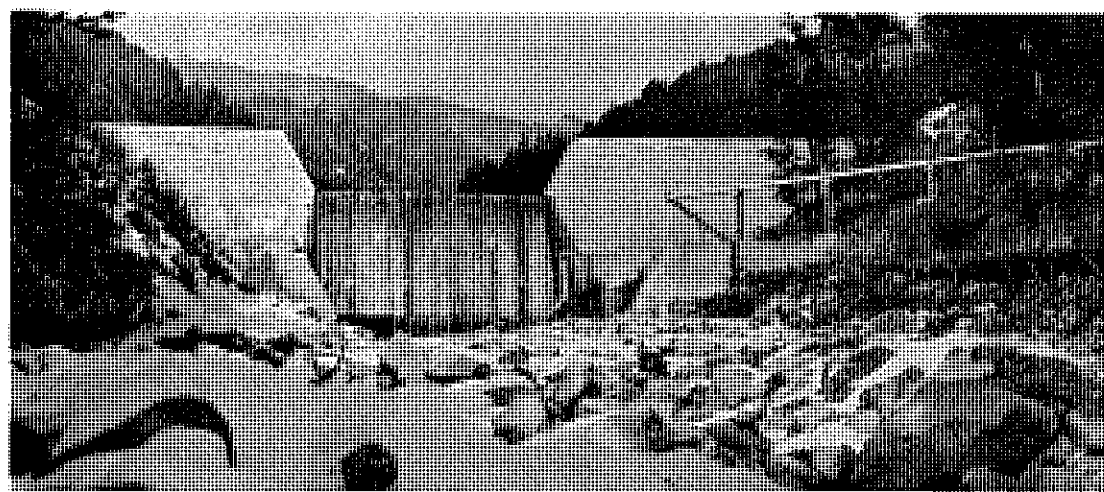
天竜川支阿智川支本谷川

長	84.0m
高	20.0m
貯砂量	634m ³
工事費	75,149千円
工期	昭38年7月~39年7月



天竜川支松川支源長川支王竜寺川

長	79.0m
高	10.0m
貯砂量	104千m ³
工事費	28,416千円
工期	昭36年9月～37年11月



天竜川支大島川

長	71.0m
高	14.0m
貯砂量	110千m ³
工事費	43,779千円
工期	37年1月～38年12月

天竜川支胡森目川

長 63.0m

高 12.0m

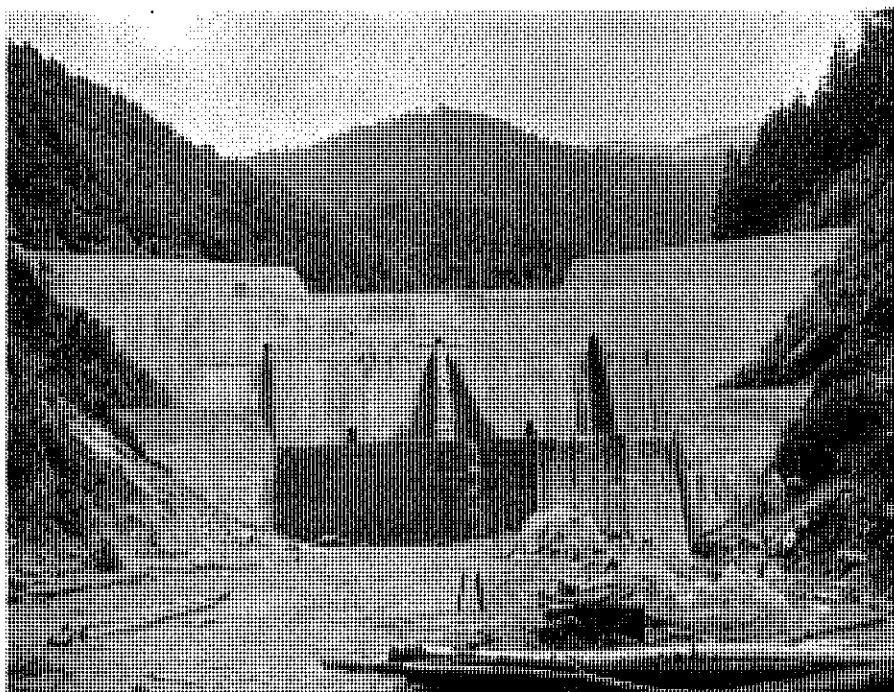
貯砂量 1千 m^3

工事費 25,483千円

工期 昭和36年10

月~37年3

月



天竜川支新宮川支百々目木川

長 64.0m

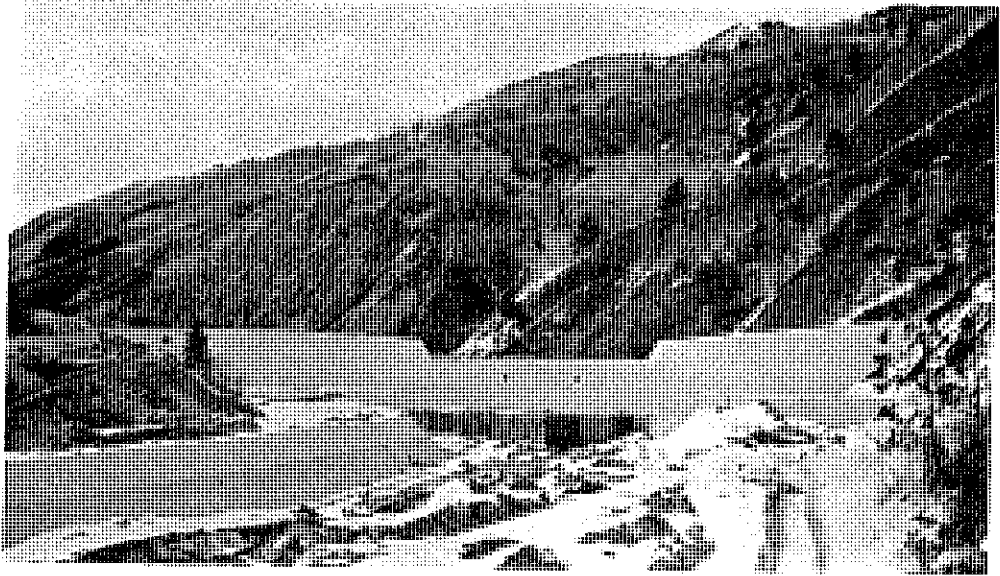
高 17.0m

貯砂量 108.千 m^3

工事費 28,579千円

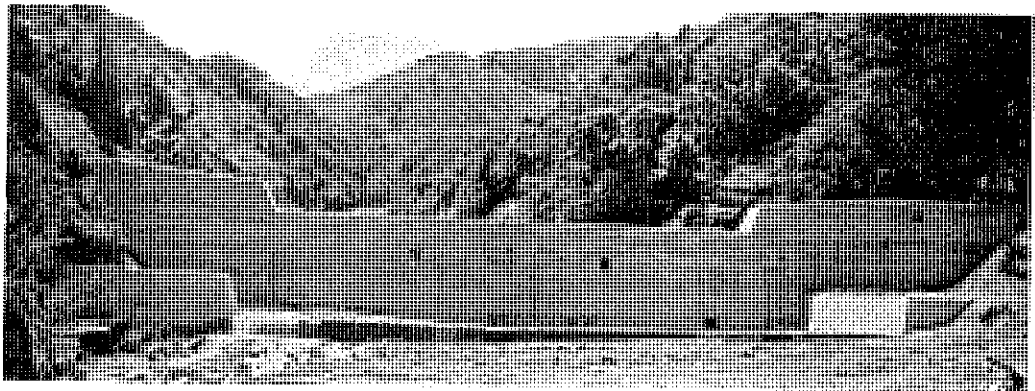
工期 昭和37年9月~

38年2月



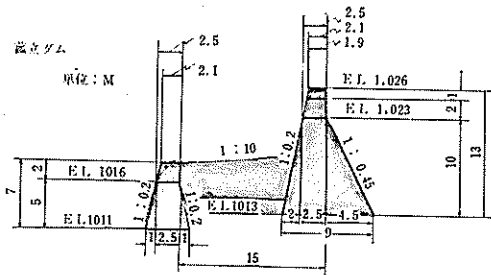
(直轄) 小波川支鹿塩川

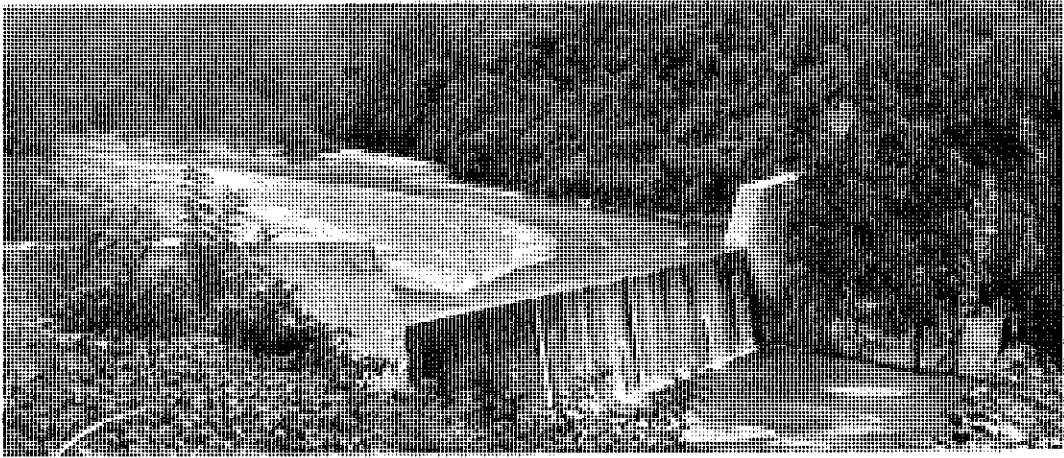
長	134.0m
高	12.0m
貯砂量	100千 m^3
工事費	954,892千円
工期	昭38.6~36年12月



(直轄) 三峰川支筑立沢

長	73.0m
高	10.0m
貯砂量	8千 m^3
工事費	44,053千円
工期	昭36年11月 ~37年8月





木曾川支爾川

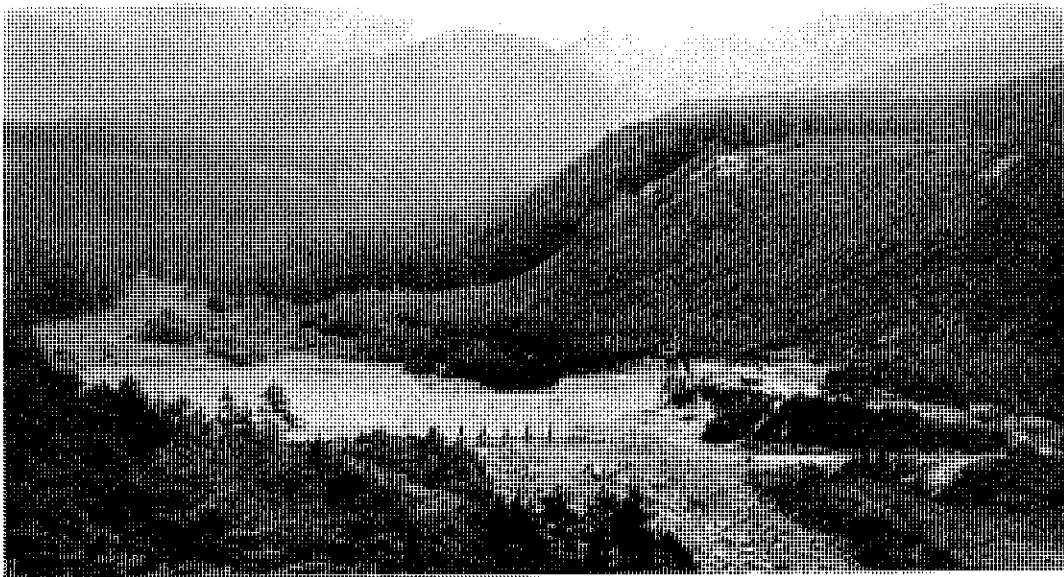
長 78.0m

高 10.5m

貯砂量 186千m³

工費 38,800千円

工期 昭36年6月~38年1月



富士川支釜無川支立場川

長 210.0m

高 12.0m

貯砂量 204千m³

工事費 101,126千円

工期 昭和37年5月~39年10月

4-6 飯田都市計画水害復興城東地区画整理事業の概要

(1) はじめに

昭和36年の梅雨前線豪雨に際し、野底川の多量の土砂を含んだ出水が、松川との合流点付近であふれて二川となり、はんらんによる流速低下のため異常な土砂たい積を起し、そのため市街地は2メートル以上埋没し、あるいは家屋、耕地等の流失をみる等惨状をきわめた。

この野底川は、水源を本高森山に発し、上流は針葉樹林でおおわれ、地質は花崗岩でその風化はなほだしく、梅雨前線豪雨の際に崩壊が相次いで起こり、多量の土砂流となり、河川の原形をとどめる大災害となり、下流に及ぶに従い、河岸欠損による二次的な流送土砂も加わって、松川との合流点付近の区画整理地区には特にじん大な被害を与えたものである。

この土地区画整理事業は、都市計画街路及び野底川復旧法線を骨子として、区画街路、橋りよう、公園、水路等の公共施設を整備、改善すると共に、土地の交換分合により宅地の利用増進を図り、住みよい町造りを行ない、災いを転じて福となすべく、昭和40年度の完成を目途として、昭和36年度より事業を施行中である。

(2) 事業計画

表-40 (1) 土地の種目別施行前後対称表

用途別	現 況		計 画		
	面積 m^2	%	面積 m^2	%	
公共用地	道 路	14,009	4.6	57,166	18.8
	河 川	13,009	4.3	15,381	5.0
	公 園	—	—	9,240	3.0
	水 路	3,307	1.1	868	0.3
	計	30,327	10.0	82,655	27.1
宅地(民有地)	234,123	76.8	219,600	72.1	
保 留 地	—	—	2,376	0.8	
合 計	264,450	86.8	304,631	100.0	
測 量 増	40,181	13.2			
総 計	304,631	100.0	304,631	100.0	

表-41 (2) 事業費

種 別	単 位	数 量	金額千円	摘 要
移 転	戸	95	98,000	上下水 内加賀沢橋、睦橋、陰田橋は災害費を合併して施行す都市計画街路3路線を舗装する
移 設	m	2,854	11,288	
街路築造	m	7,740	109,848	
" 舗装	m^2	9,097	20,948	4か所
水 路	m	1,216	13,042	
公 園	m^2	9,257	5,120	
調査設計	m^2	304,631	9,837	
整 地	m^2	116,038	13,048	
事務雑費			24,058	
合 計			305,189	

(3) 資金計画

表-42 収 入

区 分	金 高	摘 要
国庫補助金	164,190	
県 費	59,905	
市町村分担金	59,905	
計	284,000	
保留地処分金	3,600	
公共施設管理者負担金	3,506	
災害復旧合併施行分	14,083	
計	21,189	
合 計	305,189	

支 出

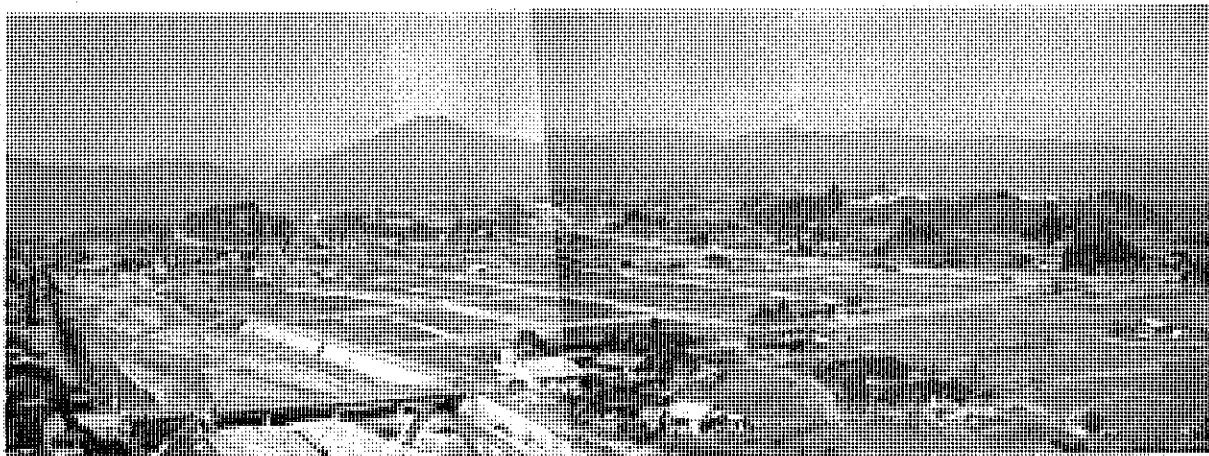
前記事業費一覧表の通り

(4) 事業の執行

事業は県執行とし、現地に飲田土地区画整理事務所を新設した。昭和36年度から着工して現在の進捗率は77%で昭和40年度には完成存見込みである。

(5) む す び

この事業は災害復旧(野底川、町村橋りよう、耕地復旧、谷川の付替復旧)竜西一貫水路等他の事業との調整事項が多かったが、関係機関の絶大な協力を得て緊急に着工することができ、また関係理事者、土地区画整理審議会委員、災害対策委員、地区住民の方々等全員が一丸となって事業の遂行に協力をした輝かしい成果であつて、ながく歴史に残る事業と思うものである。



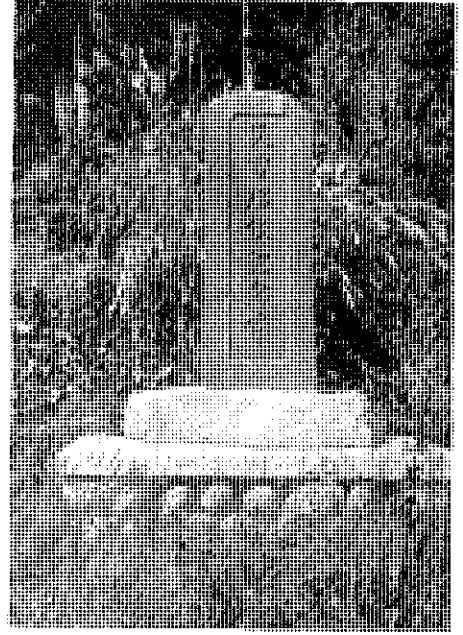
新装なった区画整理事業（手前の川は飯田松川）



第五章 集團移住

5—1 集団移住対策事業の概要

このたびの災害では、住む家も田も畑も、すべてを失ってしまった人たちが多く、これが元どうり復旧するには何年もかかるし、また雨の降るたびに、再びあの恐怖をくりかえすよりは……と他の土地へ移住や転業を希望するものが出始めたので、この地域の住民の生命、財産の保全、被害激じんによる再起の困難性から、これら住民を他の安全な場所に移住させることが災害復旧工事を施行するよりも百年の大計として賢明であるとの結論に達し、関係住民の強い要望もあり、国会、県議会等幾多の論議を経て、全国で初めての集団移住事業が上伊那郡中川村ほか4市村の12地区235戸を対象として昭和37.38の2か年で実施されたので、その事業のおもなものは次表のとおりである。



四徳移住記念碑



四徳から駒ヶ根市へ集団移住の集落

5-2 施行状況

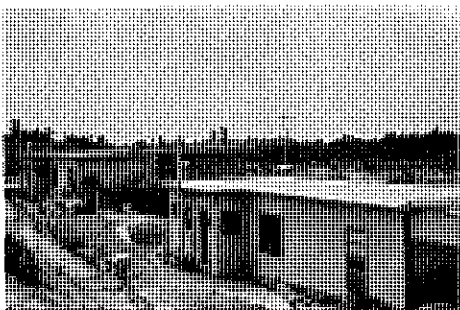
表-43 (1) 公共事業

市町村名	地区名	移住資金補助			農地買上				防災事業			
		戸数	人員	補助金額	田	畑	計	金額	山腹編柵工事		植林・簡易編柵併用工事	
									事業量	事業費	事業量	事業費
駒ヶ根市	桃沢, 新沢, 板橋, 落合, 猿沢, 大洞	60	295	11,900,000	144.7	65.7	210.4	22,481,999	1,454		69,920	
中川村	四徳村	97	496	19,620,000	233.4	320.3	553.7	52,465,379	1,800		400,060	
長谷村	奥浦	25	142	5,340,000	33.8	77.4	111.2	5,131,200	2,000	2,409,222	214,024	3,221,000
豊丘村	二了	9	55	2,000,000	8.3	11.5	19.8	1,901,500	—	—	—	—
大鹿村	北川・北入	44	235	9,100,000	9.4	130.2	139.6	8,460,700	1,000		89,950	
計	12	235	1,223	47,960,000	434.6	605.1	1,039.7	90,447,778	6,254	2,409,222	773,950	3,221,000

表-44 (2) 県単事業

市町村名	宅地買上		原野買上		地域外移住資金補助		地域外農地買上		地域外宅地買上		集団受入地建設費補助等	
	面積	金額	面積	金額	戸数	金額	面積	金額	面積	金額	箇所数	補助金交付額等
駒ヶ根市	4,006	1,201,603	7.6	22,392	39	1,950,000	—	—	—	—	4	2,957,000
中川村	10,700	3,209,931	—	—	17	850,000	—	—	—	—	—	—
長谷村	1,881	564,258	18.3	54,999	15	750,000	—	—	—	—	—	—
豊丘村	425	127,400	0.2	700	62	3,100,000	—	—	—	—	—	—
大鹿村	3,507	1,052,090	169.7	509,200	74	5,500,000	9.4	282,000	160	24,000	—	—
伊那市	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1,594,000
宮田村	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	18,471,000
計	20,518	6,155,282	195.8	587,291	207	12,150,000	9.4	282,000	160	24,000	6	23,022,000

- (3) 事業費総額 194,983,573円
- (1) 公共事業費 152,763,000円
- 国庫補助金 148,095,000円
- 県支出金 3,668,000円
- (2) 県単事業費 42,220,573円



愛知県猿投へ移住した人の家



松川町上片桐に四徳から移住し集落をつくった

第六章 そ の 他

6—1 災害日誌の抜すい

月	日	時 分	本部の記録	上伊那地区の記録	下伊那地区の記録	
6	26	12 00	大雨情報発表	各町村に大雨情報を連絡	各町村に大雨情報を連絡	
		13 00	水防本部設置、警戒態勢にはいる	水防態勢にはいる	水防態勢にはいる	
	17 45	大雨に関する情報第2号発表	大雨情報第2号入電 長野地方気象台主催による気象情報伝達説明会	大雨情報第2号入電 最高時1時間当たり40mm降雨の記録		
	27	9 00		地方事務所建設事務所、各課長の災害対策会議		
		10 30	大雨洪水注意報発令、犀川、天竜川水防警報発令	大雨洪水注意報入電、各市町村は警戒態勢にはいる		
		13 00			川路小学校避難準備情報入電	
		15 00			所長、課長会議、職員全員非常態勢にはいる	
		15 20	各地区の水防活動始まる			
		17 00		夕刻より各地に災害発生、所内全職員災害態勢にはいり水防活動始まる	災害救助対策本部設置、被害情況報告、死1.行不2.重傷3.軽傷2.計8.家屋全壊2.流失3.半壊5.その他581戸(註その他は浸水床上床下等の計以下同じ)	
		17 20	大雨洪水警報発令、土木被害計を始める			
		18 00	(以下情報警報続発)土木部係員調査に派遣交通止が所続出、木橋撤去始まる			
		20 00			時間雨量5.5mm減少傾向、人的被害合計15名家屋被害合計888戸田畑被害411haに達する。(註人的被害は死亡、行不、重傷、軽傷の合計、家屋被害は全壊、流失、半壊、その他の合計田畑は、流失、冠水の合計以下同じ。)	
		21 00	緊急部長会議(降雨激しくなる)災害対策本部設置竜江村より天竜峡水量水標16mに達して2階まで浸水中と入電			
	28	23 00	飯田市より自衛隊派遣申請、関係方面に連絡する		時間雨量12mm増量傾向、人的被害55名、家屋被害1,394戸田畑被害558ha	
		0 20	飯田市長より災害救助法適用の申請自衛隊の進入路について連絡			
		1 00	部課長調査に出発。交通止22か所となる			
		1 30	飯田市に災害救助法発動	農地経済部長来都の連絡を受く	時間雨量4.8mm、人的被害57名、家屋被害1,646戸、田畑被害前日と同様、社会部長来都の連絡を受く	
		2 00	自衛隊杉本駐と入部隊50名飯田に出発			
		2 10	竜江村に災害救助法発動			
		5 30	自衛隊先発隊伊那市着			
6 00				自衛隊200名入飯連絡、豪雨は南部に局部的に降雨の入電(飯田測候所)		
6		28	7 10	高森町に災害救助法発動 以下豊丘村、上郷村、松川町中川村、鷺町、清内路村、駒ヶ根市に発動……28日中		
			8 00		農地経済部長到着、地区対策本部を編成。部長中川村、長谷村等の災害現地に出発	
	10 00		自衛隊松本駐と入部隊本隊250名出発			
		11 00		道路分断のため交通困難。県蚕糸課桑園係長、農業改良課専門技術員調査指導のため到着、地方課長、松川町に設置された自衛隊連絡本部員として着任のため立寄る	県人事課より県職員の住宅並びに人的被害報告の連絡依頼入電人的被害合計74名、家屋被害合計1,528戸田畑被害合計4,220ha	

月	日	時	分	本部の記録	上伊那地区の記録	下伊那地区の記録				
6	28	12	00	霞ヶ浦天候悪く、ヘリコプターの出勤不可能との連絡ある職員の応援の手配長谷村山中にて人夫相当数閉じこめられ食糧要求の依頼あり。		時間雨量12mm、県下の豪雨は下火となり河川は減水始める。洪水警報は洪水注意報に切替える。				
			14	00			水道貯水池故障断水となる。鼎町、松川町、豊丘村、高遠町有線放送不通、町村間の連絡途絶となる。自衛隊の急援を要請、町村長来所陳情、自衛隊の先発隊入飯			
			17	00			上伊那地方事務所より連絡、自衛隊387名、県議代表14名、事務局6名29日夕刻までに入飯、変電所故障管下停電となる。			
			20	00			時間雨量12mmとなる見込、南部地方注意との入電(測候所)			
			22	00	飯田以南の被害概要をつかむ大鹿村不明。対策について打合わせ。		人的被害136名、家屋被害4,175戸、田畑被害4,480ha 社会部長到着、			
			23	00	大鹿村役場吏員4名連絡のため飯田市にたどり着く、被害激じんと報告される。					
			24	00			松川町より災害対策本部設置の連絡 28日中の降雨量52.5mm 所長より所員に激励訓辞			
			6	29	0	30	自衛隊第1管区より連絡に来県、進入路について打合わせ被害の激じんを報告される。自衛隊第1建群隊、連隊給水中隊等出発の連絡あり、北信地区の水防資材可能量の調査			
						3	29	諏訪湖流入量激増480m ³ /sに達する。		
						6	00	諏訪湖はんらんを始め浸水区域増大中県下の土木被害574か所39億円に達す。		電報電話局より連絡、電報は発信しても受信時刻は不明、電話については管内山吹局、会地局の一部及び管外は伊那、松本、長野各市並びに東京は可能であるが普通報では全く不可能、町村連絡は伝令又は警察電話による。
						8	00	諏訪市、大鹿村に災害救助法発動。水防資材発送、確保のため手配する。		
						10	00			中島代議士明朝8時10分新宿発て入飯の連絡
11	00	自衛隊高田部隊338名松本経由現地に向かう。								
12	00						飯田測候所より豪雨再び強くなる、全県下50mm以上の見こみ南部及び山岳地帯は特に注意との連絡。 県議一行20名5時上伊那へ出発連絡あり。			
6	29	13	00	土木部長現地指揮に向かう。	県議会各党代表14名の議員が現地視察のため来伊、長谷村、駒ヶ根市、飯島町の災害地を調査県養連、大沢指導課長、災害調査のため来伊、県庁職員が応援のため28名到着、7月8日まで災害用務につく。	大鹿村より非常電報「医療物資至急救援たのむ返事まつ」 松川町長より非常電報「交通途絶、復旧困難自衛隊の救援たのむ」 知事、副知事、県庁から現地へ出発の連絡				
			13	30			喬木村災害救助法適用			
			14	00			テレビにて災害救助状況説明			
6	29	15	00	高遠町災害救助法適用、知事飯田に向け出発						

月	日	時	分	本部の記録	上伊那地区の記録	下伊那地区の記録
		16	25	建設省宮下査定官現地へ。		飯田警察より県庁職員33名応援のため出発したとの連絡を受く
6	29	19	00	係員飯田より帰り第一報、報告	西沢知事、企業局長到着被害事情聴取のうえ直ちに飯田に向かう	
		20	00	土木部長松川町着対策打合わせ 土木被害45億円に達す		職員の疲労に対し所長注意、大鹿村長より「けが人、医療品、衣類、食物至急たのむ」の連絡自衛隊936名及び県庁応援隊33名到着
6	30	23	00	諏訪湖最高水位に達す		
		0	0	諏訪湖放流量253m ³ /Sに達す		
		1	00	千曲川下流危険状態になる。知事飯田到着の連絡あり		知事一行到着
		2	20	中東北信洪水警報解除		
		午前中		ヘリコプターによる空輸始まる。(中川村、大鹿村) 13時南信濃村に災害救助法適用14時30分県西北部に洪水注意報発令、16時国道20号線開通 水防資を續いて送る。大鹿村材担当職員無事帰る。22時知事帰庁部長会議 飯田管内の被害73億円と推定される。22時30分知事事情説明及び陳情のため上京。	自民、社会各党代表として赤坂正道、下平正一両代議士及び災害対策特別委員長小酒井参議院議員視察 下伊那地区対策本部長笠原副知事着任途次立寄る。 厚生省田崎生活保護監査官、日赤島津社長、農林省長野糧事務所長、林野庁渡辺技官、伊那営林署利田課長等、調査指導のため到着、県林務部より係員応援のため来庁	地元西沢松下今井県議来る。西沢知事郡市り災地視察島津日赤本社長、中島代議士および建設省宮下査定官到着。 自衛隊員963名、救援航空隊ヘリコプター2機到着、直ちに物資輸送並びに日赤救護班出動大鹿、生田、上郷村、鼎町等自衛隊派遣要請に来る
7	1	12	20	12時山本建設技監諏訪市到着 20時土木被害78億円に達す。	文部省石川地方課長到着、中川村、飯島町の現地視察 県企業局桜井建設部長、駒ヶ根市、飯島町の現地視察後下伊那に向かう。 原山県教育次長伊那市を視察 伊那市美鷲伊藤和夫氏外約50名の陳情隊大挙して来庁、美鷲地区堤防欠壊原因は、美和ダムの管理操作の誤りが原因として、流災水田の補償問題について訴える。 農林省林野庁計画課長および補佐現地調査のため到着、花村農業会議長、企業局桜井建設部長並びに県住宅課、建築課係員到着丸田県林業課長、林野庁中尾技官現地調査指導のため来庁	赤沢代議士一行到着 救援航空隊ヘリコプターにて大鹿、生田へ物資輸送。 小酒井、下平両代議士一行到着 米軍ヘリコプターあす来るとの連絡 中電加藤副社長一行見舞に訪問 自衛隊348名入飯 宮沢代議士到着 喬木村自衛隊派遣要請に来る 松川町へ直通電話を設置
7	2	10		10時部課長係員ヘリコプターにて大鹿村にはいる。 夕方、トラック始めて飯田にはいる。	建設省山本技監、中部地建吉川局長、小川代議士県土木部長建設省浜田、岡崎両技官現地調査のため到着 美和ダム問題を質問した。 原山教育次長、駒ヶ根市、長谷村の現地を視察 村田地方課長、松川自衛隊連絡部より帰庁の途次立寄る。 中島代議士、原市長、溝上県議災害対策の打合わせ。	建設省山本技監一行入飯の連絡あり。日赤義援物資到着 泰阜村、南信濃村両村長自衛隊派遣を要請 自衛隊44名入飯 中島代議士一行打合わせに来庁 米軍ヘリコプター6機、自衛隊ヘリコプター12機到着 ヘリコプター合計20機となり、南信濃村、松川町、阿南町へ本格的に物資輸送を開始。
7	3			予算処置、応援の手配、資材の発送を続ける。 土木被害86億円に達す。	原代議士災害地調査のため来庁 林野庁橋爪指導部長、中田県林務部長、池田治山課長、飯島町駒ヶ根市を視察 厚生省大等社会局長、唐沢県社会部長、災害地視察のため来庁 伊那市、駒ヶ根市、飯島町等の視察湯沢県議、災害対策打合わせのため来庁	県救助対策本部より連絡、応援隊員は5日間応援を延期のことヘリコプター延22機飛ばす、大鹿生田の一部に主として米、味噌、醤油、医療品を投下する。 建設省山本技監一行来庁り災地を調査視察する。 自衛隊21名入飯
7	4	8		8時 中村建設大臣、防災課長ほか東京発現地へ向かう旨の連絡あり。	厚生省環境衛生課佐竹技官来庁 農林省泰系局災害班長来庁、戸谷林業指導所次長、県住宅課、畜産課、耕地課各課係員事務指導のため来庁	中村建設大臣一行来庁、副知事と共に現知視察、厚生省社会局長来庁現地視察。 ヘリコプター12機大鹿、生田方面へ飛ばす。自衛隊169名入飯、

月	日	時	分	本部の記録	上伊那地区の記録	下伊那地区の記録
7	5			泰阜ダム関係問題起こる。	中村建設大臣一行管内を視察、大臣一行は二級国道所長、住宅建設課長、木内小山参議院議員宮沢代議士であつた。駒ヶ根市中沢地区を視察、各市町村長よりの陳情を受け、奥浦地区の地すべり対策につき強調、伊那市で一泊、翌6日諏訪市に向かう。長野営林局総務部長、NHK三神解説委員視察の途次立寄る。 県職員組合執行委員長見舞来訪 県食糧事務所、農林省蚕糸局、県蚕糸課、各係員調査指導のため来庁、住宅金融公庫関東支所長、および藤沢課長災害復興住宅認定指導のため来庁	米軍ヘリコプター6機帰る。自衛隊との調整会議を開く。 建設大臣一行現地視察 厚生省社会局長現地視察 所長、課長会議招集打合わせ。ヘリコプター10機大鹿、生田、阿智、天竜、南信濃村へ飛ばす、自衛隊55名入飯、自衛隊との調整会議開催 清内路村、上郷村から自衛隊派遣要請来る。
7	6			国鉄飯田線飯田まで開通 7月3日より地建および全国各都県の職員に別記のとおり絶大なる応援を受けた。	八田農林省政務次官一行来庁、同伴者、農林省掘参事官、改良局石倉防疫課長、林野庁災害班長、向山県経済研究室長酒井県耕地課長 伊那市長、町村会長より陳情、伊那市美鷲、駒ヶ根市中沢、中川村を視察、松川町で下伊那に引継ぐ。関東信越国税局所得税課長外係員見舞に来訪、宮原県町村会長、小林事務局長見舞のため来訪 住宅公庫北関東支所福地課長、県建築課係員、復興住宅関係会議のため来庁 東京農地事務局災害復旧課長、県耕地課係員管内視察のため来庁	八田農林政務次官来庁 県町村会正副会長見舞来訪、自衛隊19名帰隊、ヘリコプター延21機飛ばす。阿智村、天竜村、大鹿村、南信濃村方面 県職執行委員長見舞来訪 自衛隊との調整会議 (註) 本部記録と上伊那地区および下伊那地区の記録で重複部分はなるべく避けるようにしました。

(註) 本部の記録は土木部企画調査課資料より

上伊那地区の記録は地方事務所編「湯流のあと」より

下伊那地区の記録は地方事務所編「36年6月梅雨前線集中豪雨災害記録」より

6-2 昭和36~39年における関係者名簿

		36.1.1現在	37.1.31現在	38.1.31現在	39.11.2現在
知事	西沢権一郎	西沢権一郎	西沢権一郎	西沢権一郎	西沢権一郎
副知事	笠原吉三	笠原吉三	笠原吉三	笠原吉三	笠原吉三
出納部長	橋詰英雄	橋詰英雄	橋詰英雄	橋詰英雄	橋詰英雄
土木部長	小林武雄	小林武雄	小林武雄	小林武雄	小林武雄
監理課長	田中正実	田中正実	田中正実	田中正実	田中正実
技師	田中敏仁	田中敏仁	田中敏仁	田中敏仁	田中敏仁
課長補佐	今井喜代治	今井喜代治	今井喜代治	今井喜代治	今井喜代治
主任専門指導員	—	—	—	—	—
都市計画課長	松田庄次	松田庄次	松田庄次	松田庄次	松田庄次
課長補佐	滝沢保喜	滝沢保喜	滝沢保喜	滝沢保喜	滝沢保喜
道路課長	吉村貞次	吉村貞次	吉村貞次	吉村貞次	吉村貞次
技師	木下和雄	木下和雄	木下和雄	木下和雄	木下和雄
課長補佐	小野久藏	小野久藏	小野久藏	小野久藏	小野久藏
企画調査課長	36.4.1設置 田中敏仁	36.4.1設置 田中敏仁	36.4.1設置 田中敏仁	36.4.1設置 田中敏仁	36.4.1設置 田中敏仁
専門調査員	唐木卓雄	唐木卓雄	唐木卓雄	唐木卓雄	唐木卓雄
課長補佐	後藤誠	後藤誠	後藤誠	後藤誠	後藤誠
道路維持課長	—	—	—	—	—
技師	—	—	—	—	—
課長補佐	—	—	—	—	—
道路建設課長	—	—	—	—	—
技師	—	—	—	—	—
課長補佐	—	—	—	—	—
河川課長	小幡敏男	小幡敏男	小幡敏男	小幡敏男	小幡敏男
技師	竹花友彦	竹花友彦	竹花友彦	竹花友彦	竹花友彦
課長補佐	池田三喜	池田三喜	池田三喜	池田三喜	池田三喜
砂防課長	—	—	—	—	—
技師	—	—	—	—	—
建築課長	市川信治	市川信治	市川信治	市川信治	市川信治
技師	宮島光則	宮島光則	宮島光則	宮島光則	宮島光則
課長補佐	杉沢邦雄	杉沢邦雄	杉沢邦雄	杉沢邦雄	杉沢邦雄
(白田建設事務所)					
所長	駒沢敏行	駒沢敏行	駒沢敏行	駒沢敏行	駒沢敏行
庶務課長	倉沢七左衛門	倉沢七左衛門	倉沢七左衛門	倉沢七左衛門	倉沢七左衛門
工務課長	須田生夫	須田生夫	須田生夫	須田生夫	須田生夫
設計課長	—	—	—	—	—
工事課長	—	—	—	—	—
(岩村田建設事務所)					
所長	田辺関雄	田辺関雄	田辺関雄	田辺関雄	田辺関雄
庶務課長	佐伯元三	佐伯元三	佐伯元三	佐伯元三	佐伯元三
工務課長	安藤正三	安藤正三	安藤正三	安藤正三	安藤正三
設計課長	—	—	—	—	—
工事課長	—	—	—	—	—
(上田建設事務所)					
所長	松木隆治	松木隆治	松木隆治	松木隆治	松木隆治
庶務課長	浅井清一	浅井清一	浅井清一	浅井清一	浅井清一
工務課長	滝沢一雄	滝沢一雄	滝沢一雄	滝沢一雄	滝沢一雄
設計課長	—	—	—	—	—
知事	西沢権一郎	西沢権一郎	西沢権一郎	西沢権一郎	西沢権一郎
副知事	笠原吉三	笠原吉三	笠原吉三	笠原吉三	笠原吉三
出納部長	橋詰英雄	橋詰英雄	橋詰英雄	橋詰英雄	橋詰英雄
土木部長	小林武雄	小林武雄	小林武雄	小林武雄	小林武雄
監理課長	田中正実	田中正実	田中正実	田中正実	田中正実
技師	田中敏仁	田中敏仁	田中敏仁	田中敏仁	田中敏仁
課長補佐	今井喜代治	今井喜代治	今井喜代治	今井喜代治	今井喜代治
主任専門指導員	—	—	—	—	—
都市計画課長	松田庄次	松田庄次	松田庄次	松田庄次	松田庄次
課長補佐	滝沢保喜	滝沢保喜	滝沢保喜	滝沢保喜	滝沢保喜
道路課長	吉村貞次	吉村貞次	吉村貞次	吉村貞次	吉村貞次
技師	木下和雄	木下和雄	木下和雄	木下和雄	木下和雄
課長補佐	小野久藏	小野久藏	小野久藏	小野久藏	小野久藏
企画調査課長	36.4.1設置 田中敏仁	36.4.1設置 田中敏仁	36.4.1設置 田中敏仁	36.4.1設置 田中敏仁	36.4.1設置 田中敏仁
専門調査員	唐木卓雄	唐木卓雄	唐木卓雄	唐木卓雄	唐木卓雄
課長補佐	後藤誠	後藤誠	後藤誠	後藤誠	後藤誠
道路維持課長	—	—	—	—	—
技師	—	—	—	—	—
課長補佐	—	—	—	—	—
道路建設課長	—	—	—	—	—
技師	—	—	—	—	—
課長補佐	—	—	—	—	—
河川課長	小幡敏男	小幡敏男	小幡敏男	小幡敏男	小幡敏男
技師	竹花友彦	竹花友彦	竹花友彦	竹花友彦	竹花友彦
課長補佐	池田三喜	池田三喜	池田三喜	池田三喜	池田三喜
砂防課長	—	—	—	—	—
技師	—	—	—	—	—
建築課長	市川信治	市川信治	市川信治	市川信治	市川信治
技師	宮島光則	宮島光則	宮島光則	宮島光則	宮島光則
課長補佐	杉沢邦雄	杉沢邦雄	杉沢邦雄	杉沢邦雄	杉沢邦雄
(白田建設事務所)					
所長	駒沢敏行	駒沢敏行	駒沢敏行	駒沢敏行	駒沢敏行
庶務課長	倉沢七左衛門	倉沢七左衛門	倉沢七左衛門	倉沢七左衛門	倉沢七左衛門
工務課長	須田生夫	須田生夫	須田生夫	須田生夫	須田生夫
設計課長	—	—	—	—	—
工事課長	—	—	—	—	—
(岩村田建設事務所)					
所長	田辺関雄	田辺関雄	田辺関雄	田辺関雄	田辺関雄
庶務課長	佐伯元三	佐伯元三	佐伯元三	佐伯元三	佐伯元三
工務課長	安藤正三	安藤正三	安藤正三	安藤正三	安藤正三
設計課長	—	—	—	—	—
工事課長	—	—	—	—	—
(上田建設事務所)					
所長	松木隆治	松木隆治	松木隆治	松木隆治	松木隆治
庶務課長	浅井清一	浅井清一	浅井清一	浅井清一	浅井清一
工務課長	滝沢一雄	滝沢一雄	滝沢一雄	滝沢一雄	滝沢一雄
設計課長	—	—	—	—	—

	36.1.1現在	37.1.31現在	38.1.31現在	39.11.2現在
工事課長	—	—	宮 沢 武 男	玉 井 進 康
(諏訪建設事務所)				
所 長	大 口 榮 一	田 中 善 二 郎	田 中 善 二 郎	駒 沢 敏 行
庶務課長	星 野 六 一 郎	小 田 切 庸 人	倉 沢 七 左 衛 門	竹 内 一 夫
工務課長	白 鳥 義 三	白 鳥 義 三	—	—
設計課長	—	—	白 鳥 義 三	坂 本 愛 郎
工事課長	—	—	百 瀬 喜 義	坂 本 愛 郎
(伊那建設事務所)				
所 長	渡 辺 益 三	渡 辺 益 三	藤 沢 功	三 原 田 鶴 象
庶務課長	酒 井 一	酒 井 一	酒 井 一	田 畑 勝 博
工務課長	山 口 誠 次 郎	唐 木 馨 三 郎	—	—
設計課長	—	—	深 見 外 志 治	野 崎 力
工事課長	—	—	唐 木 馨 三 郎	落 合 利 男
災害復旧課長	—	36.8.16設置 片 桐 博	片 桐 博	片 桐 博
(飯田建設事務所)				
所 長	伊 沢 陸	山 口 熙	山 口 熙	藤 沢 功
庶務課長	倉 科 登 久	平 沢 善 治	義 家 敏	一 瀬 正 一
工務課長	塩 沢 信 山 人	塩 沢 信 山 人	—	—
設計課長	—	—	奥 田 良 平 二	近 藤 正 昭
工事課長	—	—	伊 藤 健 二	白 鳥 義 三
災害復旧課長	—	36.8.16設置 田 中 忠	田 中 忠	田 中 忠
(松本建設事務所)				
所 長	中 村 雅 雄	大 口 榮 一	大 口 榮 一	丸 田 勇 男
庶務課長	酒 井 正	大 酒 井 正 雄	大 市 川 正 一	中 原 平 四 郎
工務課長	上 条 英 一	滝 沢 一 雄	—	—
設計課長	—	—	田 中 良 一	永 田 進 一
工事課長	—	—	塩 原 広 榮	塩 原 広 榮
(福島建設事務所)				
所 長	鈴 木 佐 雄	鈴 木 佐 雄	有 賀 林 藏	平 井 永 一
庶務課長	荻 原 進	荻 原 進	稲 垣 一 忠	大 工 原 安 雄
工務課長	宮 沢 武 男	角 田 俊 一	—	—
設計課長	—	—	依 田 久 雄	花 岡 文 雄
工事課長	—	—	小 林 藤 馬	小 林 藤 馬
(大町建設事務所)				
所 長	丸 田 勇 男	三 原 田 鶴 象	三 原 田 鶴 象	鈴 木 佐 雄
庶務課長	高 橋 貞 一 郎	高 橋 貞 一 郎	小 沢 武 貴	石 田 芳 貢
工務課長	遠 藤 辰 男	塩 原 広 榮	—	—
設計課長	—	—	鶴 巻 信 行	鶴 巻 信 行
工事課長	—	—	小 林 亮	小 林 亮
(長野建設事務所)				
所 長	小 林 茂 一 郎	小 林 茂 一 郎	松 木 隆 治	山 口 熙
庶務課長	小 泉 善 四 郎	小 泉 善 四 郎	岩 間 一 男	岡 沢 敏 隆
工務課長	青 木 勇 雄	山 口 誠 次 郎	—	—
設計課長	—	—	角 田 俊 一	深 見 外 志 治
工事課長	—	—	山 口 誠 次 郎	唐 木 馨 三 郎
(中野建設事務所)				
所 長	藤 沢 功	藤 沢 功	駒 沢 敏 行	土 屋 年 三
庶務課長	山 口 忠 貞	山 口 忠 貞	曾 根 原 輝	唐 沢 正 三
工務課長	山 崎 亨	武 居 兼 文	—	—
設計課長	—	—	武 居 兼 文	奥 田 良 平
工事課長	—	—	塚 田 一 夫	塚 田 一 夫
(豊科建設事務所)				

		36. 1. 1現在	37. 1. 31現在	38. 1. 31現在	39. 11. 2現在
所	長	土屋年	青木守	塩沢信山人	塩沢信山人
庶務課	長	栗林憲	栗林憲	西条能全	高田雄夫
工務課	長	石沢正	石沢正	—	—
設計課	長	—	—	村山泰美	村山泰美
工事課	長	—	—	石沢正	石沢正
(篠ノ井建設事務所)					
所	長	宮川益男	高島茂郷	高島茂郷	平井重次
庶務課	長	鎌原篤三	鎌原篤三	高戸谷清三	平井谷清三
工務課	長	古畑隆平	宮沢武男	—	—
設計課	長	—	—	藤田佳男	青沼武之助
工事課	長	—	—	岡沢義明	岡沢義明
(屋代建設事務所)					
所	長	青木守男	青木勇男	青木勇男	青木勇男
庶務課	長	轟芳愛郎	轟芳愛郎	一孝男	一孝男
工務課	長	坂本愛郎	坂本愛郎	—	—
設計課	長	—	—	高橋住夫	高橋住夫
工事課	長	—	—	児島五郎	青木節義
(須坂建設事務所)					
所	長	三原田鶴象	土屋年	土屋年	後藤誠
庶務課	長	村越忠一郎	村越忠一郎	一由亮三	後藤芳男
工務課	長	小河原七三男	百瀬喜義	—	—
設計課	長	—	—	百瀬喜義	滝沢和夫
工事課	長	—	—	北原重治	小河原七三男
(飯山建設事務所)					
所	長	坂口袈裟幸	坂口袈裟幸	坂口袈裟幸	遠藤辰男
庶務課	長	小林千栄	小林千栄	藤沢尚夫	藤藤唯重
工務課	長	川久保寛	佐塚房之助	—	—
設計課	長	—	—	野崎力	山下純平
工事課	長	—	—	佐塚房之助	山松基春
(奈良井川改良事務所)					
所	長	平井重次	遠藤辰男	遠藤辰男	宮沢武男
庶務課	長	柳原芳文	竹内一与	竹内一与	和沢利雄
工務課	長	下村寿雄	遠藤辰男	小林盛雄	赤羽正式
(犀川砂防事務所)					
所	長	有賀林藏	有賀林藏	滝沢一雄	滝沢一雄
庶務課	長	高田雄夫	高田雄夫	高田雄夫	高田雄夫
工務課	長	塩原広栄	山崎七三郎	山崎七三郎	菅原慶一
(土尻川砂防事務所)					
所	長	高島茂郷	古畑隆平	事務代理 佐藤唯重	須田生夫
庶務課	長	佐藤唯重	佐藤唯重	佐藤唯重	金箱義美
工務課	長	玉井運康	玉井運康	玉井運康	田中善治郎
(姫川砂防事務所)					
所	長	平井永利一	平井永利一	平井永利一	山口誠次郎
庶務課	長	和沢利雄	和沢利雄	和沢利雄	宮沢内武夫
工務課	長	田中良一	菱田義寛	松山基春	西内武夫
(飯田土地区画整理事務所)					
所	長(兼)	—	36. 12. 21設置 山口熙	山口熙	藤沢功治
次	長	—	小河原七三男	小河原七三男	北原重治
(軽井沢土地区画整理事務所)					
所	長(兼)	—	—	37. 4. 1設置 宮川益男	坂口袈裟幸
次	長	—	—	田沢光雄	田沢光雄

国 会 議 員

	36. 1. 1現在	38. 1. 1改選	36. 1. 1現在	37. 7改選
	衆議院議員 小坂善太郎 倉石忠雄 中沢茂一 羽田武嗣郎 井出太郎 松平久二 小川平胤 宮沢茂巖 原島甲子七 中田正一 増平俊樹 下唐沢	小坂善太郎 中沢茂一 倉石忠雄 羽田武嗣郎 井出太郎 松平久二 小林百久 吉川正樹 原平田 増唐沢	参議院議員 羽生三郎 木内四郎 棚橋小太郎 小野溝勝男 青木一稔 勝平林剛 平芳	羽生三郎 木内四郎 林山邦太郎 小野溝勝男 青木一稔 平芳

県 議 会 議 員

	36. 1. 1現在	37. 1. 31現在	38. 1. 31現在	39. 6. 1現在
議長 副議長 土木委員会委員長 副委員長 議 員	中村環巖 村田和夫 池田一 向山樞 高橋逸雄 松下一 北沢貞吉 中金井秀雅 耳塚充邦 米沢嘉久太郎 杉本藤太郎 武川隆鏡 中田山輔 白井秀雅 中沢周三 佐藤武久 依田義知 依田敏治 山岸光治 五湯味積男 湯溝上男 今井造夫 横松雄仙 木園夫 中吉尾男	中村治郎 中山隆輔 五味穂光 依田敏治 高橋逸雄 白田潔人 向山秀雅 金井塚充邦 関沢美 武川隆鏡 中山秀雅 中沢周三 依田義知 依田敏治 山岸光治 五湯味積男 湯溝上男 今井造夫 横松雄仙 木園夫 中吉尾男	西沢寛志 堀忠雄 福島国雄 野沢市太郎 串原義直 松田又三郎 中杉本藤太郎 内堀喜一郎 小袋忠右衛門 関沢敏 武川隆鏡 中金秀雅 中沢周三 依田義知 依田敏治 山岸光治 湯溝上男 今井造夫 横松雄仙 木園夫 中吉尾男	風間和夫 市村郁逸 松下充邦 耳塚義直 堀原三郎 中田穠治 唐木田讀司 柏小林庄友 高津常隆 中山秀雅 中沢周三 依田敏治 依田光治 山岸雄男 岩松正敏 福溝上男 今井造夫 村串義逸 中岡林正美 尾崎秀

6-3 図表の索引

表-1	長野県内水系の諸元	1
表-2	流路延長および流域面積	2
表-3	主な地点の降雨量表	5
表-4	日雨量調書	6
表-5	代表地点における過去の降雨量との比較	6
表-6	最高水位と洪水流量	7
表-7	昭和36年災害の府県別状況	9
表-8	新聞寄せ記事	10
表-9	公共土木施設の被害および復旧額の状況	12
表-10	昭和36年公共土木施設国庫負担災害所管別工種別復旧額表	12
表-11	農林被害総計表	12
表-12	人的被害	13
表-13	家屋の被害	13
表-14	昭和36年直轄災害復旧内訳表	14
表-15	飯田線被害総計表	15
表-16	その他の施設被害	15
表-17	水防活動の状況	26
表-18	主要資材の内訳	26
表-19	陸上自衛隊の活動状況	29
表-20	自衛隊の派遣人員	29
表-21-1	自衛隊の派遣状況	29
表-21-2	ヘリコプターによる救援実績	32
表-22	飲料水の供給	34
表-23	炊出し	34
表-24	災害救助法適用市町村一覧	36
表-25	災害救助費内訳	36
表-26	義えん金品の状況	36
表-27	応急仮設住宅及び住宅応急修理	37
表-28	避難所の設置	37
表-29	災害救助法発令市町村の被害状況	38
表-30-1	公共土木施設災害復旧事業査定及び検査官氏名	42
表-30-2	県外応援職員	42
表-30-3	県内 //	43
表-31	昭和36年災害応援職員一覧(建設省関係)	43
表-32	// (他府県関係)	43
表-33	昭和36年公共土木施設災害復旧事業査定別総計表	45
表-34	昭和36年公共土木施設災害復旧事業年度別進捗状況表	46
表-35	昭和36年公共土木施設災害復旧事業別災害費比較表	46
表-36	昭和36年災害林務農地年度別進捗状況表	47
表-37	昭和36年公共土木施設災害復旧事業災害別工種別各年度別進捗状況表	47
表-38	昭和36年災害復旧事業(助成関連を含む)に使用した計画洪水量	48
表-39	特殊緊急砂防事業一定計画水系別調書	94
表-40	飯田都市計画水害復興区画整理事業計画	101
表-41	同上事業費	101
表-42	同上資金計画	101
表-43	集団移住対策事業の施行状況	104
表-44	同上県単事業	104
図-1	長野県の水系概況	1
図-2	天竜川流域概況図	2
図-3	地質図	3
図-4	//	3
図-5	豪雨時の高層天気図	4
図-6	//	4
図-7	//	4
図-8	昭和36年梅雨前線豪雨連続降雨量分布	5
図-9	過去における災害を起した梅雨時の降雨量分布図	5
図-10	天竜川筋被害概況図	11
図-11	災害救助法適用市町村図	37

編集後記

月日のたつのは早いもので、本県の県政史上最大といわれた昭和36年災害もあれから4年、関係の方々の昼夜を分たぬ御努力によって、今日輝かしい成果をあげ、今、伊那谷に新しい光を投げかけようとしている。

あの時のあの恐しさ、のろわしさ、苦しさ、そうしたものをすべて乗越え、復旧のために立ちあがった不屈の魂と、その復興への努力を記念し、記録に残すようにということで、不肖われわれ一同編集委員を命ぜられたのでありますが、仕事の合間に集まったの編集のため、なかなかはかどらず、その任の重きを痛感した次第で、御覧の皆様には御不満の点多かろうと思いますが、お許しをいただきたいと思ひます。

資料としては、当時、土木部では、水防本部は河川課に、資料の集取、被害報告の取まとめ、広報等は企画調査課に、応急資材、あるいは応援職員の心配等庶務的事項は、監理課にというように分担されており、内部としては資料が比較的整理されていたことと、あの災害にも係らず現地においても比較的冷静にこうした資料を集めておいていただいたお蔭で、これらを集めて積あげたところ尠大なものとなりさて編集ということとなると、ページ数の関係等で、カットするのに心を痛めるほど、このため、編集会議を何度も開いては検討し、どうやらまとめあげることができました。

しかし、当時の記憶からぜひ載せたい写真等が貸出等のためか一部見当らなかつたりして、残念に思えたこともあり、また、生々しい写真を見ていると、あれもこれも書き残しておきたいと思うことが続々と湧いて来たりそれらをおさえるのかえって苦しい思いをしました。

また、この冊子を編集するに当りいろいろ御力添えや御指導をいただいた建設省天竜川上流工事事務所および県文書広報課あるいは部内の部課長各位に改めて感謝を表するとともに、資料の提供をいただいた関係機関各位に厚く御札を申しあげる次第であります。

終りに、この災害のため犠牲になられた方々の御冥福をお祈りして結びとします。

昭和40年3月

編 集 委 員

編 集 委 員

監 理 課	萩 原 文 雄
都 市 計 画 課	吉 沢 英 治
道 路 維 持 課	藤 沢 美 喜 男
道 路 建 設 課	宮 坂 博 敏
河 川 課	武 居 兼 文
砂 防 課	依 田 久 男
建 築 課	上 水 明 一
伊那建設事務所	松 下 通 男
飯田 //	滝 沢 武 勇
諏訪 //	浜 野 貴

編集に当り利用させていただいた資料写真

- 梅雨前線豪雨資料No1～No6 (土木部企画調査課)
- 36年6月梅雨前線集中豪雨災害記録(下伊那地方事務所)
- 濁流のあと (上伊那地方事務所)
- 復興の記録 (伊那谷36災害復興感謝祭事務局)
- 梅雨前線豪雨災害から一年(土木部)
- 梅雨前線豪雨災害を顧みて(社会部)
- 災害防疫活動報告書(伊那保健所)
- 中川村の災害誌(上伊那郡中川村)
- 建設省中部地方建設局天竜川上流工事事務所より借用の資料写真
- 長野県文書広報課提供写真
- 信濃毎日新聞社撮影写真(写真提供と記入のもの)
- 伊那飯田各建設事務所および関係市町村撮影の写真
- 長野県気象月報(長野気象台)
- 長野県地質図(長野県地学会編)

災害復旧の記録(昭和36年梅雨前線豪雨災害)

昭和40年3月25日 印刷

昭和40年3月31日 発行

編集兼発行 長野県土木部

印刷 葛友印刷株式会社

